

是ハ何年何月何日第何號報告ノ内前掲ノ金額不納ニ付成規之通該財産公賣處分ニ及ヒタルモ何々ノ事故(詳細)ニ付期限完結スル能ハサルニ付一旦欠損  
 一金何程 何郡前(後)半期定期収入(隨時収入)營業稅(雜種稅)何々稅  
 是ハ全上ニ付成規之通處分スヘキノ處本人旅行失踪逃亡ニ付公賣ニ付スヘキ財産ノ有無所在不分明ニヨリ一旦欠損  
 右及報告候也

明治 年 月 日

縣知事宛

島司郡長姓名印

(用紙半紙但改削塗抹ヲ禁ス)

明治何年度地方稅(追加)皆濟帳

(第二十六號書式)

島廳郡役所名

明治何年度地方稅(追加)皆濟帳  
 高金何程(朱書以下做之)

一金何程

何郡郡村(市街)地租割

内

金何程

第一期徵收額

内(外)金何程乘算不足(過)(朱書)

此地租高何程

(二期毎ニ如斯列記スヘシ以下做之)

外

金何程

欠損

内

金何程

第一期分

是ハ公賣處分ノ末地所買受人無之ニ付該地所官沒シ欠損ノ義年月日第何號ヲ報告濟以下做之

金何程

第何期分

金高何程

一金何程

何郡戸數割

第一類 第一節 地方稅

内	金何程	第一期徴収額
外	此戸數何戸(全額欠損ヲ除キタル戸數)	
内	金何程	欠損
内	高金何程	第何期分
内	一金何程	何郡營業稅
内	金何程	商業稅徴収額
内	金何程	前半期
内	金何程	後半期
内	金何程	工業稅徴収額
内	金何程	前半期

外	金何程	後半期
内	金何程	欠損
内	金何程	商業稅
内	金何程	前半期
内	金何程	後半期
内	金何程	工業稅
内	高金何程	前半期
内	一金何程	後半期
内	金何程	何郡雜種稅
内	金何程	料理屋稅徴収額

金何程  
金何程

前半期  
後半期

以下課目ノ順次ヲ追ヒ列記スヘシ其月税日税ニ係ル者ハ前半期後半期ヲ區別スルニ及  
ハス

外

金何程

欠損

内

金何程

料理屋税

内

金何程

前半期

金何程

後半期

右實收惣額金何程

明治何年度地方税皆濟右書面ノ通ニ候也

明治 年 月 日

島司郡長姓名印

縣知事宛

(二郡以上ヲ管轄スル島司郡長ハ每郡順次前掲ノ如ク  
記載シテ其種目(大科目)毎ニ全様ノ合計ヲ付スヘシ)

(第二十七號書式)

明治何年度地方税不納者公賣處分濟報告表

種 目	地 租 割	戸 數 割	商 業 税		種 類
			質 屋	小 賣	
種 目	地 租 割	戸 數 割	質 屋	小 賣	種 類
不納金額					漁業税
公賣物件					料理屋税
全上代價					
欠損金額					
不納人員					

第一類 第一節 地方税

合計		右及報告候也 明治 年 月 日 縣知事宛 (第二十八號書式)		島司郡長姓名印	
營業稅		明治何年度營業稅雜種稅仕譯書		何 郡	
商業稅		等級種目年稅額		前半期人員 前半期課稅物件	
何等卸賣商	何等陸運請負業	會社	後半期人員	後半期課稅物件	收稅金合計

工業稅		等級種目年稅額		前半期人員 前半期課稅物件	
何々	染物場	割鍊鍛冶場	後半期人員	後半期課稅物件	收稅金合計
計		何々		何々	

何々	等級種目	年	税額	年税ノ部		月税ノ部	日税ノ部	委節税ノ部	モ準之	通計	計	何々	何々	何々
				前半期人員	後半期人員									
				前半期人員	後半期人員									
				前半期課税物件	後半期課税物件									
				収税金合計										

右ハ明治何年度地方税中營業稅雜種稅仕譯書面ノ通ニ候也  
 明治 年 月 日  
 縣知事宛  
 島司郡長姓名印

計

一 等級種目ノ欄ニハ課目課額ニ定メアル順次ヲ追ヒ記載スヘシ  
 一 人員ノ欄ニハ其實際ノ頭數ヲ記載シ不納處分等ニヨリ欠損ヲ生シタル金員ハ收税金合計ノ欄内小計通ニ朱ヲ以テ外書ニシ調査ノ便ニ供スヘシ  
 一 上リ高二課税スル割鐵鍛冶場及染物場船車屠畜ノ如キ物件ノ員數ニヨリ課税スル者ハ其員數ヲ課税物件ノ欄ニ記載スヘシ  
 一 日税月税ニ係ル者ハ其日數月數ヲ課税物件ノ欄ニ記載スヘシ  
 一 漁業探藻税ノ次ニ雜種税ノ通計ヲ付シ其次ニ營業稅雜種税ノ惣計ヲ付スヘシ  
 一 免稅ヲ許可シタル者ハ惣計ノ次欄ニ朱ヲ以テ其員數ヲ外書ニスヘシ  
 一 二郡以上ヲ管轄スル島司郡長ハ每郡順次前掲ノ如ク記載ノ其後ニ全様ノ合計ヲ付スヘシ

(第二十九号書式)  
 (明治二十二年三月訓令第四十三号ヲ以更正)  
 番號  
 明治何年度地方税既納金御下戻ノ義ニ付上申

一金何程 何郡前(後)半期定期收入(臨時收入)營業稅(雜種稅)何々稅  
 右ハ何年何月何日第何號仕譯書(ノ内)ヲ以テ上納致候處何々ノ事故(詳細)ニ付誤(過)納ニ  
 相成候間御下戻相成度此段上申候也

明治 年 月 日

島司郡長姓名印

縣知事宛

(地租割戸數割モ此式ニ準ス)

明治何年度

地方稅欠損臺帳

(第三十號書式)

島廳郡役所(戶長役場)

地方稅欠損臺帳

種 目	期 別	欠 損 金 額	郡 村 名	不 納 者 姓 名

(裏面第一二欄ヲ省キ以下同様ニシテ十三欄ニ界ス)

第一類 第一節 地方稅

明治何年度

# 地方稅一旦欠損臺帳

(第三十一號書式)

島廳郡役所(戶長役場)

## 第何期戶數割

報 告 日	及 事 故	何 月 何 日 何 々	一 旦 欠 損 額	追 徵 月 日	追 徵 金 額	欠 損 額	不 納 者 住 所 氏 名
			拾 圓	何 月 何 日	五 圓	何 月 何 日 欠 損 額	何 郡 何 村
			貳 圓			五 圓	某
			壹圓五拾錢				
			拾三圓五拾錢				
			合 計		六圓五拾錢七 圓		
					壹圓五拾錢		

(以下裏面)


該臺帳中第一欄ハ戸長役場ニテハ只其事故ノミナ記スヘシ

地租割營業稅雜種稅モ皆此式ニヨリ各期種目(大科目)別ニ見出シテ付シテ調製スヘシ

○明治二十二年八月三十日訓令第百七十二號 島廳 郡役所 市役所 戸長役場 町村役場

明治二十二年 月訓令第二十九號地方稅徵收規則取扱手續ノ内自今左ノ通取扱フヘシ

一 市長戸長町村長ニ於テ地租割ヲ各納稅者ニ課當シタル後其納期末日以前地租ノ減免若ク

ハ納期中増租賦稅ニ係ル者アルキハ直ニ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發付又ハ酌正シ市

長ハ縣廳ニ戸長町村長ハ島廳郡役所ニ其増減額ヲ報告スヘシ

一 隨時收入ニ係ル船車稅ハ市長戸長町村長ニ於テ其臺帳ニ登記スルト同時ニ 國稅ヲ徵收ス

全時直ニ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發シテ徵收シ戸長町村長ハ翌月二日限り其月中傳令

書發付ノ金額ヲ島廳郡役所ニ報告スヘシ

○明治廿二年七月三十日訓令第百五十九號 島廳 郡役所 市役所

今般縣令第百七號ヲ以テ貸席及娼妓賦金徵收規則相定メ候ニ付右取扱手續左ノ通心得ヘシ

一 本年七月三十一日ヲ期シ現在ノ貸席及娼妓營業者及貸席取締人ハ名簿ヲ以テ所轄警察署

ヨリ通知スヘキニ付右ニ依リ賦金徵收方管理スヘシ

一 貸席及娼妓營業ノ免許及貸席取締人撰定認可ヲ與ヘタルキハ所轄警察署ヨリ通知スヘキ

ニ付本人ノ届出ト符合セシメ徵收台帳ヲ設ケ 地方稅徵收規則取 記入スヘシ但爾後異動ア

ルキモ亦全シ 扱手續ニ準據シ

一 貸席及娼妓賦金縣廳ヘ送納方其他別段ノ規定ナキモノハ地方稅徵收規則取扱手續ニ準據

スヘシ

● 稅目増設

○明治十七年七月十日甲第八十一號

今般縣會ノ議決ヲ徵シ政府ノ裁可ヲ得地方稅費目中特ニ左ノ一項ヲ增加ス

一 隱岐國航海補助費

右布達候事

● 雜收入科目

○明治十八年七月九日郡乙第五十一號 郡役所

地方稅經濟ニ屬スル雜收入金科目別紙之通相定候條此旨相達候事(明治十九年六月郡乙第

五十六號廿一年六月訓令第百七號全年九月訓令第百四十一號ヲ以テ更正追加)

地方稅ニ屬スル雜收入科目

第一類 第一節 地方稅



大科目	小科目	品目	事由
雑収入	警察費雑入	巡査懲罰金並不用品拂下代ニシテ警察費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	警察廳舎建築修繕費雑入	古竹木等ノ不用物品ニシテ警察廳舎修繕費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	土木費雑入	堤堰使用料道路並木敷貸渡料道路並木拂下代堤堰上古竹木障害木拂下代等ニシテ土木費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	縣會議費雑入	破損椅子全テイフル等ノ不用物品拂下代ニシテ縣會議費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	衛生及病院費雑入	病院藥價病室料及不用物品等ノ拂下代ニシテ衛生病院費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	教育費雑入	學校生徒授業料並不用物品拂下代等ニシテ教育費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	郡廳舎建築修繕費雑入	古竹木拂下代等ニシテ郡廳舎修繕費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	郡吏員給料旅費及ヒ廳中諸費雑入	郡吏員罰降不用物品拂下代等ニシテ郡役所經費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	諸達書及揭示諸費雑入	揭示房古竹木拂下代等ニシテ諸達書及揭示諸費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	勸業費雑入	種苗類及物品拂下代飯石郡小田村森林下草刈取料等ニシテ勸業費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	戸長以下給料旅費雑入	戸長以下罰等ニシテ戸長以下給料旅費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	縣廳舎建築修繕費雑入	官舎貸渡料全敷地料古竹木拂下ケ代等ニシテ縣廳舎建築修繕費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	縣監獄費雑入	囚徒傭工錢工業收入不用物品拂下代等ニシテ縣監獄費ヨリ生セシ一切ノ収入金	
	貸座敷其他賦金	貸座敷引手茶屋娼妓ヨリ收入スル賦金	
	縣監獄建築修繕費雑入	監獄著付屬地貸渡料古竹木拂下代等ニシテ監獄建築修繕費ヨリ生セシ一切ノ収入金	

官沒金及官沒財産公賣代	死亡逃亡失踪者ノ遺産戸長保管満期ニ付官沒シタルモノ及税金不納ニ係ル官沒品公賣代金
前年度分何税延納	地租割戸割割營業稅雜稅延納ノ四科目ニ區分スヘキモノトス
欠損金雑入	欠損金ヨリ生スル一切ノ收入
公賣落札者違約金	税金不納者公賣處分ノ際沒収シタル証據金手付金差金

○明治十九年五月十一日郡乙第四十三號 郡役所

地方稅雜收中郡吏員給料旅費及廳中諸費並ニ戸長以下給料旅費雜入ハ明治十九年度以降其時々其期限アルモノハ收入毎三月取纏メ翌月十日限リ上納スヘシ此旨相達候事  
但一年度内ノ收入金ヲ納完シタルキハ其旨證明書ヲ差出スヘシ

● 地方稅檢査

○明治十八年十月廿三日甲第百五十一號  
地方稅中營業稅雜稅ニ關スルモノハ時々郡役所ニ於テ實地檢査ヲ爲スヘシ  
但檢査官ハ該郡役所ノ檢査印章ヲ攜帶スヘシ  
右布達候事

● 支出科目

○明治二十一年八月十七日訓令第百二十八號 鳥廳 郡役所  
地方稅中土木費町村土木補助費郡廳舎建築修繕費郡吏員給料旅費及廳中諸費戸長以下給料旅費ニ係ル支出科目別表ノ通相定ム

但科目ハ事業ノ伸縮興廢ニ應シテ取捨スルコトヲ得其新設變更ヲ要スルコトアル時ハ其時々理由ヲ具シ伺出ヘシ

大科目	中科目	小科目	解
土木費	道路橋梁費		
		道路新開費	
		道路改修費	
		道路修繕費	
		橋梁新架費	
		橋梁架換費	
		橋梁修繕費	
		船橋費	船橋新設修繕費其他番人給
		標柱費	國郡界標柱、里程標柱、道路種別界標柱等新設修繕費
		並木植繼費	
		測量費	測量器械全附屬具代及其修繕費、人足賃、器械運搬費、標柱代、海川實測ニ要スル船賃、器械費及製圖ニ要スル筆紙墨繪具

	治水堤防費	雜費	障得木ノ切拂作物ノ損傷ニ對スル手當金、住還並木ノ道路ニ支障ヲナスモノ取片付費工役人夫死傷手當金臨時借家料等ノ類
		堤防築造費	
		堤防修繕費	
		河身改修費	
		浚渫費	
		土砂扞止費	
		標柱費	水量標柱、河川堤防種別界標柱等新設修繕費及番人給
		測量費	
		雜費	
	港灣費	新築費	
		修繕費	
		浚渫費	
		常明燈費	

町村土木補助費	測量費	町村費ヲ以テ支辨スベキ道路橋梁治水堤防港灣溜池用水路橋管堰球等築造修繕費用ノ補助
郡廳舎建築修繕費	雜費	
	第二種道路新開費	
	第二種道路改修費	
	種別外何々費	(以下各小科目ハ土木費小科目ニ準ス) (其種類ヲ異ニスル毎ニ科目ヲ別ニス)
	建築費	廳舎新築費、建繕費、土地買上代、井泉開鑿費等 (一ヶ所毎ニ區別ス)
	修繕費	全上撰修繕費等 (箇所ヲ指定シ得ヘキモ) (ノハ一ヶ所毎ニ區別ス) 箇所ヲ指定シ難キ普通修繕費
	借家料	家屋借料
	借地料	土地借料
郡吏員給料旅費及廳中諸費	俸給	

郡書記給料	郡書記及雇員給料	
管内旅費	郡書記以下管内ニ係ル旅費	
管外旅費	郡書記以下管外ニ係ル旅費	
備給	雇員、給仕、小使、爲替方給、公文遞送人足、臨時雇上人足、職工、評價人賃金、船、車、馬、備料等ノ類	
慰勞手當	郡書記以下職務勉勵手當	
一時賜金	在官死亡者ノ遺族ニ給スルモ)	
給助費	郡書記以下職務ノ爲傳染病ニ感染セシモノ、送金爲替手數料、新聞廣告料、物品入札拂手數料、等ノ類	
手數料		
應費		
雜給		
備品	椅子、腰掛、各種机、筆記臺、書箱、文箱、長持、戸棚、文庫、鐵函、燭、水桶、盥、釣瓶、手桶、密掛、机掛、時計、暖爐、火鉢、蓑、帽子、傘、立、各種印章、活字、版、木、度、量、衡、器具、各種車、磁、斧、鋏、鋤、水、瓶、鍋、釜、土、瓶、茶、碗、茶、盆、灰、取、火、箸、柄、杓、我、打、盤、糊、板、刷、毛、官、報、点、火、器、製、本、道、具、簪、子、書、箱、繪、圖、卷、物、官、報、点、誌、硯、硯、箱、墨、盤、墨、汁、入、コ、ハ、ス、馬、口、定、木、ペン、削、石、盤、算、盤、水、入、糊、入、肉、池、箱、具、皿、イ、ン、キ、並、登、筆、架、文、鎖、小、刀、錐、鑊、鍍、進、荷、塵、取、門、札、室、札、風、呂、敷、碓、標、旗、毛、布、等ノ類	

第一類 第一節 地方稅

管內旅費	管外旅費	慰勞手当	一時賜金	贈費	給助費	管內旅費	管外旅費	慰勞手当	一時賜金	贈費	給助費
戸長用係筆生管内ニ係ル旅費	戸長用係筆生管外ニ係ル旅費	戸長用係筆生職務勉勵手当	退官又ハ死去ノ戸長ニ給スルモノ	戸長用係筆生辦當料	戸長用係筆生職務ノ爲傳染病ニ感染セシモノノ給助金	戸長用係筆生管内ニ係ル旅費	戸長用係筆生管外ニ係ル旅費	戸長用係筆生職務勉勵手当	退官又ハ死去ノ戸長ニ給スルモノ	戸長用係筆生辦當料	戸長用係筆生職務ノ爲傳染病ニ感染セシモノノ給助金
雑給	俸給	戸長給料	用係以下給料	雑費	諸手当	運搬費	印刷費	賄費	電信料	郵便税	消耗品
戸長以下給料旅費	雑給	戸長ニ給スル給料	用係、筆生給料	臨時借家料、臨時借地料、蔵敷料、物品借入料、鑑札製作費、官物拾上ノ者ハ報勞金等	筆工料、帳簿綴費、紙摺摺費、等	物品運搬費、運搬荷造用品代、保険料、等ノ類(入足賃ハ包含セズ)	文書印刷諸費	郡書記、雇員、給仕、小使、非常雇付夫等辦當料	電信一切ノ料金	郵便税書留及別配送手数料郵便爲替料	諸用紙、封袋、毛筆、鐵筆、鉛筆、石筆、繪具、筆、墨、朱墨、墨汁、繪具、白墨、印肉、ペレンス、硯、金、留針、消ゴム、各種ノ薪木、石炭、木炭、石炭油、種油、器械用油、漆、ペンキ、茶、檜膠、石炭酸、硫酸、燐燐、生炭、封燐膠、付木、火繩、心、繩、帶、雜巾、草履、下駄、新聞紙、等ノ類

● 俸給旅費

○明治十九年九月四日訓令第十七號 郡役所  
郡役所備員俸給支給規則左ノ通相定ム

但明治十二年一月乙第九號達月俸規則ハ廢止ス

郡役所備員俸給支給規則

- 第一條 備員ノ月給ハ金十二圓以内日給ハ金四十錢以内トス
- 第二條 月給ハ毎月二十六日(十二月ニ限リ二十日尤休日ナレハ翌日若シ)日給ハ毎月末日ニ於テ支給スルモノトス尤休日ニ當ルハハ操上トス(明治二十一年十一月訓令第五百十九號ヲ以更正)  
但公務旅行廢職退職及死亡等ノハ本條ノ限ニアラス
- 第三條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ月給ハ當月分日割ヲ以テ計算スルモノトス
- 第四條 新任ノトキハ職務ニ就キタル當日ヨリ支給ス月給當月分支給方ハ前條ニ同シ

第五條 他へ轉任スルルハ其應ノ事務ヲ終リタル日迄支給ス又他ヨリ轉任スルルハ前任應ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ支給スルモノトス

第六條 廢職退職及ヒ死亡ノトキハ月給ハ常月分日給ハ當日分迄ヲ支給ス

但廢職退職ハ發令ノ日ヲ以テ區分スト雖出張中ニ係ルルハ其命令到達ノ日ヲ以テ區分ス

第七條 廢職退職ノモノ事務引繼發務取調ノ爲メ特ニ命テ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙ホ從前ノ俸給ヲ支給ス

第八條 廢職退職ノ后在職中ノ事件ニ付更ニ出頭ヲ命スルルハ其間日割ヲ以テ前職ノ俸給ヲ支給ス

但自己不正ノ事件ニ付出頭セシムルモノハ支給ノ限ニアラス

第九條 月給ノモノ願濟休暇旅行及私事ノ故障(自己ノ病氣及)ニ由リ欠勤スルモノハ三十日以后ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第十條 月給ノモノ病氣(轉地療養トモ)ニ由リ欠勤スルモノ九十日以后ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス

第十一條 第九條ノ場合ト第十條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第九條ニ始マリ第十條ニ終レハ其間通算シ九十日ノ后俸給ヲ減シ第十條ニ始マリ第九條ニ終レハ其間通算シ三十日ノ

后俸給ヲ減ス

第十二條 月給日割ノ法ハ月給額ニ其日數ヲ乘シ其月ノ日數ヲ以テ除シ算出スルモノトス

第十三條 日給ハ出勤日數ニ應シテ支給ス但祝日大祭日日曜日等一般ノ休暇日(欠勤中ニ除ク)及ヒ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ欠勤スルモノハ出勤日數ニ算入ス

第十四條 公務ニ依リ旅行スルモノニハ翌月マテノ俸給ヲ給與スルコトヲ得

第十五條 減俸願濟旅行病氣其他ノ事故ニ由リ俸給ヲ追徴スヘキモノアルトキハ翌月ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

○明治十九年九月六日訓令第十九號 郡役所  
明治十六年七月郡乙第六十三號達左之通改正ス

郡吏俸給定額金算出法

一 郡吏俸給定額金ハ反別地耕宅 五千町毎ニ一位戸數五千戸以下ハ五百戸毎ニ一位五千戸以上一万戸マテハ一千戸毎ニ一位一万戸以上ハ二千戸毎ニ一位ヲ増シ其位數ヲ算定シ一位一ヶ月金十二圓ヲ以テ其額ヲ定ム

但一位ニ滿タサル端數ハ四捨五入ノ法ニヨリ算定ス

○明治十九年十月十九日訓令第五十號 郡役所 戸長役場  
戸長以下俸給支給規則別冊ノ通改定ス

(別冊)

戶長以下俸給支給規則  
第一條 戶長ノ月俸ハ左表ニヨル

准官等	准三等	准四等	准五等	准六等	准七等	准八等	准九等	准十等
月俸	貳拾五圓	貳拾圓	拾七圓	拾五圓	拾三圓	上拾二圓 下拾一圓	拾圓	八圓 七圓

第二條 用係以下給料ハ別ニ定ムル所ノ定額内ニ於テ月俸ハ金五圓以下日給ハ金十七錢以下適宜支給スルモノトス

第三條 月俸ハ毎月二十六日(十二月ニ限リ二十日尤休日ナレハ翌日若シ)日給ハ毎月末日ニ於テ支給スルモノトス其休日ニ當ルハ繰上トス但公務旅行廢職退職及死亡等ノハ本條ノ限ニ非ス(明治二十一年一月訓令第百五十九號ヲ以更正)

第四條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ起算ス但月俸ハ其當月分日割ヲ以テ計算スルモノトス  
第五條 新任ノハ職務ニ就キタル當日ヨリ支給ス但月俸當月分支給方ハ前條但書ニ全シ  
第六條 他ハ轉任スルトキハ其役場ノ事務ヲ終リタル日迄尙從前ノ俸給ヲ支給ス又他ヨリ轉任スルハ前任應ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新任ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第七條 廢職退職及ヒ死亡ノトキハ月俸ハ當月分日給ハ當日分迄ヲ支給ス但廢職退職ハ戶長ハ其命令到達ノ日ヲ以テ區分シ用係以下ハ發令ノ日ヲ以テ區分ス

第八條 廢職退職ノモノ事務引繼職務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ職務ニ從事スルトキハ其間尙ホ從前ノ俸給ヲ支給ス

第九條 一月内ニ於テ月俸ノモノ廢職或ハ退職シ更ニ就職シタルハ其月分新任ノ俸給ヲ支給セス尤モ新任ノ俸給多キハ其差額ノミヲ支給ス

第十條 廢職退職ノ後在職中ノ事件ニ付更ニ出頭ヲ命スルハ其間日割ヲ以テ前職ノ俸給ヲ支給ス但自己不正ノ事件ニ付更ニ出頭セシムルモノハ支給ノ限ニ非ス

第十一條 月俸ノモノ願濟休暇旅行及私事ノ故障(自己ノ病氣及)ニ由リ欠勤スルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第十二條 月俸ノモノ病氣(轉地療)ニヨリ欠勤スルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス但職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニ非ス

第十三條 第十一條ノ場合ト第十二條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第十一條ニ始リ第十二條ニ終レハ其間通算シ九十日ノ後俸給ヲ減シ第十二條ニ始リ第十一條ニ終レハ其間通算シ三十日ノ後俸給ヲ減ス

第十四條 戶長滿五年以上奉職十一年未滿ニシテ退職セシトキハ現俸給三箇月分ヲ給シ其滿十一年以上ニシテ全上ノモノニハ現俸給四箇月分ヲ給ス但自己ノ便宜ニ依リ退職ヲ請フ者又ハ服務規律ニ違ヒタル者ノ諭旨退職及懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免職セシ者ニハ總テ之ヲ給セス

第一類 第一節 地方稅

第十五條 戸長在職中死亡シタル者ハ月給三箇月分ヲ其遺族ニ給ス  
 第十六條 月俸日割ノ法ハ月俸額ニ其日數ヲ乘シ其月ノ日數ヲ以テ除シ算出スルモノトス  
 第十七條 日給ハ出勤日數ニ應シテ支給ス尤祝日大祭日日曜日等一般ノ休暇日(欠勤中ニアルモノ)及ヒ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ欠勤スルモノハ之ヲ支給ス但一時雇入ノモノハ祝日大祭日日曜日等一般ノ休暇日ト雖モ勤務セサルハ支給ノ限ニアラス

○明治十八年六月十三日乙第八十八號 郡役所 戸長役場  
 明治十七年<sup>ハ本縣乙</sup>第百六號達戸長役場用係以下給料配賦定率左之通改正明治十八年度ヨリ施行候條此旨相達候事

但事務特別繁劇ニシテ實際定率ヲ以支ヘ難シト認ムルトキハ別段ノ詮議ヲ以テ若干ノ金額ヲ増加スルコトアルヘシ

一 役場一ヶ所ニ付

一ヶ月金三圓五十錢

(明治二十一年二月訓令第二十三號ヲ以更正)

一同所轄内戸數

其年(管ハ二十年度ハ十壹戸ニ付)

同 金 壹 錢

(明治二十年一月訓令第四號ヲ以更正三項共)

一同地租決算高

前々年(管ハ二十年度)ノ決算高

同 金 壹 錢

但拾圓未満ノ端數ハ勿捨

一同耕地地<sup>民有ニシテ前々年未嘗ハ十八年度ハ十六年十</sup>二月三十一日<sup>前々年未嘗ハ十八年度ハ十六年十</sup>調地籍上田畑宅地ト稱スルモノノ反別拾町歩ニ付

但拾町歩未滿全上

同 金 壹 錢

一同山林<sup>全上山林ト稱スルモノ</sup>ノ反別百町歩ニ付

同 金 壹 錢

但百町歩未滿全上

○明治十八年六月十三日郡乙第四十一號 郡役所

今般乙第八十八號ヲ以戸長役場用係以下給料配賦法改正相達候處右定率外増加ハ部内役場一ヶ所平均一ヶ年金貳拾圓ノ割ヲ以豫算金交付スヘキニ付各役場事務ノ繁閑ヲ精査シ定率配付額ニテ實際難支箇所ニ限り相當差等ヲ設ケ經伺ノ上配付方施行スヘシ此旨相達候事  
 (明治二十一年二月訓令第二十四號ヲ以更正)

○明治十九年九月二十七日訓令第三十九號 郡役所  
 郡書記以下旅費額左表之通改定シ明治十九年<sup>ハ</sup>閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ支給ス但來ル十月一日ヨリ施行スヘシ

等級	旅費額					
	瀛車賃	瀛船賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
一哩毎ニ						
一海里毎ニ						
一里毎ニ						
一里毎ニ						
一日毎ニ						
一日毎ニ						

一等	郡書	金五錢	金四錢	金七錢	金五錢	金六十錢	金四十錢
二等	雇員	金四錢	金三錢	金六錢	金四錢	金四十錢	金二十五錢

○明治十九年九月二十七日訓令第四十號 郡役所 戸長役場  
 戸長以下旅費規則別冊ノ通改定來ル十月一日ヨリ施行ス  
 (別冊)

戸長以下旅費規則

- 第一條 旅費ハ戸長以下公務ニ依リ旅行スルハ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ分テ二等トシ別表定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リ瀛車賃瀛船賃車馬賃及日當ヲ支給ス
- 但車馬賃及日當ハ管内外ニ區別シ之ヲ支給ス
- 第三條 瀛車賃ハ瀛車旅行瀛船賃ハ瀛船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス
- 第四條 官有ノ舟車馬及官廳ニ於テ借入傭入タル舟車馬等ニテ旅行シ若クハ旅行ノ性質ニ依リ特ニ舟車馬等ノ實費拂テ許可シタルキハ本則ノ瀛車賃瀛船賃及車馬賃ヲ支給セス
- 第五條 瀛車賃ハ哩數瀛船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ
- 第六條 赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管内ヲ通過スルトキハ其路程ハ管外ニ準シ又管内巡回

- ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ其路程ハ管内ニ準スヘシ
- 第七條 日當ハ陸路六里未滿瀛車十哩未滿及瀛船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ
- 第八條 瀛車賃瀛船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給スヘシ但其一未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス
- 第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但瀛車賃及瀛船賃ハ會計年度ニ係ハラズ瀛車瀛船ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ
- 第十條 檢田測量及土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃ヲ給セス日當額ニ三割ヲ増給スヘシ
- 第十一條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ本職相當ノ車馬賃瀛車賃若クハ瀛船賃ノ二倍ヲ支給スヘシ
- 第十二條 廢職若クハ退職ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ
- 第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ
- 但用係筆生ハ本條ノ場合ニ於テ其旅費ヲ給セス
- 第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ



旅費ヲ支給スヘシ  
第十五條 旅行中廢職死亡又ハ諭旨退職シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給スヘシ

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰瀛船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其口數ヲ計算スヘシ  
(別表)

等級		瀛車賃	瀛船賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
一等	戶長	一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
二等	筆生	金四錢	金三錢	金六錢	金三錢	金四拾錢	金貳拾錢
用係		金三錢	金二錢	金五錢	金二錢	金三拾錢	金拾五錢

○明治十九年九月二十五日訓令第三十六號 郡役所 戶長役場  
郡吏員戶長等職務上ニ係リ刑事裁判ノ証人トシテ裁判所ニ出頭スルルハ治罪法ニ依リ旅費

日當ヲ請求スルコトヲ得ルト雖トモ被告事件無罪又ハ冤訴トナリタル時ハ請求セサル儀ト心得可シ  
但旅費日當ヲ請求シタル并其金額ハ雜收人トシテ納付スヘシ

● 諸給與

○明治二十二年三月十四日訓令第四十九號 郡役所  
文具支給規則別紙ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス  
但明治十八年九郡乙第七十五號達中第十一條十二條ハ本年三月三十一日限り廢止ス  
(別紙)

文具支給規則

第一條 此規則ニ於テ文具ト稱スルハ左ノ物品ヲ總稱ス  
筆 ペン ペン軸 鉛筆 墨 朱墨 インキ 檢印用印肉 卷紙 押紙 硯石  
硯箱 インキ壺 字消護膜 簿記用海綿 小刀 錐 鋏 糊壺 水入 文鎮  
檢印用肉池 定木 尺度 机拂用ブラッシュ 綴金及留計 烏口 コンバス  
紙挾 火熨斗

第二條 郡長以下ニ給スル文具ハ毎月左ノ等級ニ應シ代料ヲ以テ支給スルモノトス

- 甲級 常務 金拾五錢
- 乙級 簿記專掌 金貳拾錢
- 丙級 書記專掌 金貳拾五錢

第一類 第一節 地方稅

第三條 文具料ハ毎月二十六日十二月ニ限リ二十日尤休之日ニ當ルトキハ總テ繰上之ヲ支給スヘシ  
但轉免等ノ事故アルハ此限ニアラス

公務ノ爲旅行スルモノハ翌月迄ノ文具料ヲ繰上支給スルヲ得

第四條 任轉免病氣其他事故アリテ就職一ヶ月ニ滿タサルトキハ其月十五日前後ヲ以テ區別シ全額若クハ半額支給シ一ヶ月以上ニ渉ルハ一切支給セス

他ノ經濟ノ職務ヲ兼テ若クハ他ノ用務ニテ本職ニ從事セサルハ其間尙前項ノ區分ニ依ル

第五條 第二條等級ノ職務ヲ相互ニ兼ルハ代料多額ノ一方ニ就キ之レヲ支給スル者トス

第六條 職掌上高價ノ文具ヲ要シ定額ヲ以テ辨給シカタキハ特ニ現品ヲ使用セシムルヲ得

○明治十八年九月十九日郡乙第七拾五號 郡役所

郡役所諸給與方則別紙之通相定候條此旨相達候事

第一條 給仕小使ノ給料ハ日給トシ其額給仕ハ金拾錢ヨリ多カラス小使ハ金拾五錢ヨリ多カラスルモノトス (明治二十年二月訓令第三拾壹號ヲ以更正)

但祝日祭日及ヒ一般ノ休暇日ニハ其日給ヲ支給シ病氣忌中其他自己ノ都合ニ依リ欠勤スルモノニハ一切支給セサルヘシ

第二條 金錢取扱人給料ハ年額ヲ折半シ九月三月兩度ニ其他非常駐付人夫足留給ノ如キ年

給ノモノハ全額ヲ四分シ每三ヶ月分取廻其末月六月九月十二月三月ニ之ヲ支給スヘシ  
但雇入及ヒ雇止ノ端月數ハ月割端日數ハ日割該月ノ現日數ニ割合ヲ以テ四捨五入ノ法ニ據リ厘位ニ止メ支給スルモノトス

第三條 辨當料ハ郡吏及ヒ備筆生トモ一度金三錢五厘給仕小使ハ全金貳錢五厘ヲ支給スヘシ

第四條 宿直ノモノニハ一夜ニ付辨當料二度分ヲ支給シ事務繫劇ノ爲翌日正午ヲ過キ退廳ノモノニハ尙ホ一度分ヲ加給スヘシ

第五條 不寐番ノモノニハ一夜ニ付辨當料二度分ヲ支給スヘシ

第六條 事務繫劇ノ爲午後八時ヲ過キ退廳スルモノニハ辨當料一度分十二時ヲ過クレハ二度分徹夜シタルハ三度分ヲ支給スヘシ

第七條 宿直ノ小使夜十二時ヲ過クル迄使役シタルハ第五條ニ準シ辨當料ヲ支給スヘシ

第八條 水火災其他非常ノ節出勤時限ニアサルハ於テ臨時出廳スルモノ午後八時夜十二時ニ及ヒ午前八時ヲ過クル毎ニ辨當料一度分ヲ支給スヘシ

但正午十二時ヲ過クルハ尙ホ一度分ヲ加給スヘシ

第九條 祝日祭日及ヒ一般ノ休暇日出勤ノモノ正午ヲ過クレハ辨當料一度分ヲ支給スヘシ

第十條 派出先ニ於テ事務ノ都合ニ依リ徹夜スル丁アルモ滯留日當ヲ給スヘキモノニハ別ニ辨當料ヲ支給セス

第一類 第一節 地方稅

第十一條 第十二條(明治二十二年三月訓令第四十九號ヲ以削除)

● 郡役所戸長役場經費

○明治十八年九月十九日郡乙第七十四號 郡役所 郡役所戸長役場經費請求概則別紙之通相定候條此旨相達候事

郡役所戸長役場經費請求概則

- 第一條 郡役所戸長役場經費ハ一周年度ノ豫算額ヲ四期ニ區分シ每三ヶ月分隱岐國ニ限リ前後二期ニ區分シテ第一號書式ニ做ヒ請求書ヲ調製シ前月十五日迄ニ請求スヘシ
- 第二條 實費ヲ以テ請求スヘキ金額ノ如キハ第二號書式ニ據リ其金員事由ヲ詳悉シタル明細任譯書ヲ添付シ其時々之ヲ請求スヘシ
- 第三條 一期ヨリ三期ニ至ル經費ハ圓位ニ止メ其端數ハ末期ノ經費ニ併セ請求スヘシ
- 第四條 金員到達シタル日ハ即日第三號書式ニ據リ領收證書ヲ調製發付スヘシ
- 第五條 請求シタル金員郡役所現在ノ地方稅徵收金ト振替拂渡スルハ前條ニ準シ領收證書ヲ調製納證書一同進達シ納受ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 風震水火等ノ難ニ罹ル者ノ一時救助金其他達若クハ指令ニ依リ一時繰替タル金員ハ施行後五日以内第四號書式ノ請求書ニ其金員事由ヲ詳悉シタル明細任譯書ヲ添付請求スヘシ

(第一號)

第何號

豫算高金若干

一金若干

內譯

金若干

右請求候也

年號 月日

縣令宛

(第二號)

第何號

所屬スル實費請求書

一金若干

但何々費

右請求候也

第何期分經費

何費

何費

郡長 姓名 印

郡長 姓名 印

第一類 第一節 地方稅

縣令宛

△(第三號)  
第何號

證 第何號<sup>△</sup>會計主務官宛  
リ送附ノ番號

一金若干<sup>○</sup>主任書  
記押印

但明治何年度<sup>△</sup>郡役所<sup>△</sup>經費第何期分

<sup>△</sup>地方稅徵收金ヲ以テ振替拂渡スルハ左ノ例ニ依ル

但全上何年何月何日第何號御<sup>△</sup>達<sup>△</sup>指令ニ依リ第何號納證書ヲ以テ納受

右領收候也

年 號 月 日

郡 長 姓 名 印

會計主務官宛

△(第四號)  
第何號

繰替金請求書

一金若干<sup>○</sup>主任書  
記押印

何々費<sup>△</sup>繰替  
ル費目

但別紙仕譯書之通

右ハ何年何月何日第何號御<sup>△</sup>達<sup>△</sup>指令ニ據リ本郡役所經費ヲ以テ繰替置候條現金御渡相成度候也

年 號 月 日

縣令宛

郡 長 姓 名 印

○明治十六年六月十九日郡乙第五十四號 郡役所

經費豫算確定ノ後實際仕拂ノ都合ニ據リ小科目ノ金額彼是流用ノ儀出願候節ハ別紙書式ニ

做ヒ仕譯書調製可差出此旨相達候事

仕拂見込高金

一金

何費不足

但何々之事由ニテ不足相生申候

但何費ヨリ流用

外 金

豫 算 高

但豫算確定後費額組替及流用或ハ増減等コレア  
ル分ハ其金員<sup>内書</sup>ニ區分掲出スヘシ以下做之

仕拂見込高金

一金

何費不足

内金

何費ヨリ流用

但事由前ニ同シ

第一類 第一節 地方稅

外	豫算高
金	
豫算高金	
一金	何費殘額 但何費工流用
但何々之事由ニテ殘額相生申候	
外	仕拂見込高
金	
豫算高金	
一金	何費殘額
	何費工流用
内金	同
金	全ク殘
但事由前ニ全シ	
外	仕拂見込高
金	
右之通有之候也	
年 號 何 月	何 郡 役 所
○明治十九年一月十六日郡乙第五號 郡役所	

本縣其他各廳ヨリ郡内官民又ハ出張官吏等へ諸交付金渡方囑托ヲ受ケ其本人へ下付スル片又ハ歸廳等ノ故ヲ以更ニ之レヲ移送或ハ返送スル場合ニ於テ要スル爲替手數料及現金遞送費ハ特ニ約束等アルモノヲ除ク之外總テ其役所經費ヲ以テ支辨スヘキ義ト心得フヘシ此旨相達候事

● 郡役所金錢物品取扱

○明治十九年五月十四日郡乙第四十八號 郡役所  
郡役所金錢物品取締規則別紙ノ通相定候條此旨相達候事

- 第一條 郡役所戸長役場經費其他豫算ノ定アル者ハ別途増費ヲ請求スルヲ得ス  
但事款ノ變更其他止ヲ得サル事故アルモノハ豫メ具狀指揮ヲ乞フヘシ
- 第二條 地方税支出科目中科目以上ノ科目ハ彼是流用スルコトヲ得ス若シ己ヲ得サル事故アル片ハ其理由ヲ具シ伺出ヘシ(明治二十一年九月訓令第三百二十六號ヲ以本條及第十一條第十二條追加元第三條以下順次操下ク)
- 第三條 科目流用ヲ稟請シ未ダ許可ヲ得サル以前其不足ヲ生シタル科目ニ於テ新規支出ヲ要スル事業ヲ執行スルヲ得ス
- 第四條 達若クハ指令アル者ヲ除クノ外郡役所經費其他各種ノ金錢ヲ以テ他ノ費途ニ繰替ルヲ得ス

第五條 金錢ノ收支物品ノ購入拂下ハ惣テ郡長之ヲ決スヘシ  
 第六條 出納主任者ニアラスシテ現金ノ收支ヲ取扱フコトヲ得ス  
 第七條 備品ノ新調又ハ購入ヲ要スルモノ一個ノ價金五圓以上ニ係ルルハ稟請許可ヲ受クヘシ  
 第八條 執務參考ノ爲新聞雜誌ノ購求ヲ要スルルハ稟請許可ヲ受クヘシ  
 第九條 備品及ヒ消耗品ノ増減受拂ハ一々帳簿ニ登記シ錯雜紛亂ナキヲ要スヘシ  
 第十條 備品ハ毎年三月三十一日現在ニヨリ目錄ヲ製シ四月三十日限差出スヘシ(明治十九年九月訓令第三十八號ヲ以追加)  
 第十一條 郡役所ニ於テ使用スル郵便切手ハ出納主任者ニ於テ購求シ當該主任者ニ交付スヘシ  
 但出張中使用スルモノ、如キハ此限ニ在ラス  
 第十二條 前條郵便切手ハ當該主任者ニ於テ毎月末其受拂ヲ精算シ會計主務ニ報告スヘシ  
 ○明治二十二年三月十五日訓令第五十一號 島廳 郡役所  
 島廳地方稅備荒儲 郡役所現金出納順序更ニ別紙之通相定來ル四月一日ヨリ施行ス  
 但明治十八年六月郡乙第四十三號達ハ本年三月三十一日限り廢止ス  
 (別紙)  
 現金出納順序

第一條 凡ソ現金ノ出納ハ總テ切符ヲ以テ取扱フモノトス  
 第三條 收入金ハ納人ナシテ上納證書ヲ差出サシメ主任者ノ認印ヲ受ケ之ニ現金ヲ添ヘ爲替方へ納入セシム爲替方ニ於テハ上納證書ヲ查閱シ第一圖ノ預リ切符ヲ作り納人ニ交付シ納人ハ此預リ切符ヲ上納證書ニ添ヘ更ニ會計主務へ納付セシメ第二圖ノ領收證書ヲ得テ收納了スルモノトス  
 第三條 支出金ハ會計主務ナシテ第三圖ノ甲乙接續ノ切符ヲ發行シ其甲號ハ請取人ニ領收證引換ニ交付シ爲替方ニ就キ現金ニ交換セシメ其乙號ハ振出ノ通知トシテ即時爲替方へ回付スヘシ  
 第四條 爲替方於テ前條振出切符ノ通知ヲ受ケタル片ハ其印鑑割印等篤ト查閱シ置キ請取人ヨリ甲號切符ヲ以テ請求スル片ハ之ニ對照シテ現金ニ交換ヲ爲サシムヘシ  
 第五條 爲替方へ預ケ金抵當額ニ超過シ引揚ヲ要スル片ハ第三條第四條ニ準據スヘシ  
 第六條 爲替方ナシテ毎日預リ金<sup>領收證書ヲ交付</sup>未渡金<sup>支拂通知切符ノ</sup>假預リ金<sup>爲替方符ヲ發シタルモ郡役所ニ於テ受入未濟ノモノ</sup>ノ現預リ高ヲ區別シタル第四圖ノ計表ヲ製シ翌日限り之ヲ會計主務へ證明セシメ其當否ヲ查閱スヘシ  
 但現金交換濟ノ支拂切符ハ本文計表ニ添付セシムヘシ  
 第七條 毎日現金及送金等ノ現在高ヲ第五圖ノ式ニ依リ調製シ常ニ抵當ノ過不及ヲ調査スヘシ

第一圖

第何號 證 何條某納

一金若干也○

右金高正ニ預リ申候也

年月日

(何)爲換方 何銀行 印

又 何條某 印

(何) 會計主務宛

爲替方元帳一簿印  
總川七川分

用紙美濃紙

第二圖

第	年	月	日
號	先	納	

縱四寸五分

會計主務押印  
截切ノ線

一金若干○	但	第	號	先納	右正ニ預收候也	會計主務氏名 印
二金若干○	但					

第一類 第一節 地方稅

△0.000	印	<p style="text-align: center;">△爲替方(何銀行)又ハ(何某)  <b>現金交換</b></p> <p style="text-align: center;">△何某渡</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>△金何程〇</p> <p style="font-size: small;">取扱主任</p> </div> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">日附後卅日限此切符持參人へ現金相</p> <p style="text-align: center;">△會計主務姓名 <b>印</b></p> <p style="text-align: center;">明治何年何月何日</p>
000		<p style="text-align: center;">△何某渡</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>△金何程〇</p> </div> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">日附後卅日限此切符持參人へ現金相</p> <p style="text-align: center;">明治 年 月 日</p>

百九十七

△0.000	印	<p style="text-align: center;">△爲替方(何銀行)又ハ(何某)  <b>現金交換</b></p> <p style="text-align: center;">△何某渡</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>△金何程〇</p> </div> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">日附後卅日限此切符持參人へ現金相</p> <p style="text-align: center;">△會計主務姓名 <b>印</b></p> <p style="text-align: center;">明治何年何月何日</p>
000		<p style="text-align: center;">△何某渡</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>△金何程〇</p> </div> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">日附後卅日限此切符持參人へ現金相</p> <p style="text-align: center;">明治 年 月 日</p>

第三圖

百九十六





第五圖

○明治十三年十一月三十日郡乙第九十七號 郡役所  
 郡役所預ヶ金引揚中取扱方規則別紙之通相定候條此旨相達候事  
 預ヶ金引揚中取扱規則  
 第一條

票 目		金
本 預 ヶ 金		
假 預 ヶ 金		
未 渡 金		
遞 送 金		
小 計		
抵 當 額		
預 ヶ 金	過 不及	
金 庫 在 高		
現 在 金 總 計		

△(備考) 抵當額不及=付増額ノ義命令中

(島司)又ハ(郡長) 會計主務 第

第四圖

年 月 日 預

當額一覽表

員			事 由	借
500	00	0	前日ヨリ越高	
1,000	00	0	本日預リ高	
550	00	0	本日上納高	
500	00	0	△未渡金	
2,550	00	0	前日ヨリ越高	
2,550	00	0	本日収入高	
0	00	0	△仮預リ金	
0	00	0	前日ヨリ越高	
450	00	0	本日預リ高	
3,000	00	0	本日返戻高	
			前記殘額金員預リ	
			會 計 主	

二課 何係

銀行又ハ金錢預入ハ預ケ金其抵當高ニ超過スルハ相當ノ増抵當ヲ出サシムヘシト雖モ若シ其事能ハス超過ノ金員引揚タルハ左ノ條項ニ照シ嚴重保管スヘシ

第二條

引揚タル金員ハ詳細取調成規ノ如ク銀行又ハ金錢預リ人ハ眞實監査包封ヲナサシメ之ヲ筐中ニ納メ郡長主任書記及銀行又ハ金錢預リ人立會合印ノ封ヲ爲シ郡役所金庫又ハ金庫ナキ向ハ近傍人民所有ノ堅牢ナル土藏ヲ借受現令蓄之ニ蓄藏シ金庫監守人ノ面前ニ於テ郡長主任書記立會合印封スヘシ

但金庫ヲ開閉スル毎ニ本行ノ如クシ其解封印紙ハ檢閲ノ後破却スヘシ

第三條

土藏及監守所ヲ借受クルハ其地相當借料ヲ定メ該役所定額金ノ内ヨリ支辨スヘシ

第四條

監守人ハ實直壯健ノモノヲ撰テ之ヲ申付受書差出サセ監守人心得書ヲ指示シ尙受書ヲ徴スヘシ且心得書ハ常ニ監守所内ニ揭示スヘシ

但監守人心得書ハ郡役所ニ於テ創定シ嚴重取締スヘシ

第五條

監守人ハ監守ノ日數ニ應シ相當ノ人員ヲ定メ一晝夜四人以下二人以上交番セシムヘシ給料ハ一晝夜前日午前第八時ヨ一人三拾錢以下ヲ給シ別ニ夜食料一夜壹人七錢五厘宛支給シ非

番ノモノハ一切支給セサルヘシ

但給料夜食料ハ實費下附スヘキニ付其都度明細仕譯書ヲ以請求スヘシ

第六條

毎朝書記ヲシテ監守所ニ回視セシメ金庫ノ封及監守人ノ景狀ヲ視察セシメ其役所内ニ金庫アルモノハ宿直官ヲシテ夜中臨時視察セシムヘシ

第七條

監守人ニハ捕繩棒及附屬ノ諸器具ヲ渡シ置キ胡亂体ノモノアルハ取押ヘ直ニ之ヲ宿直官ニ通報セシメ宿直官ハ郡長ニ通知其事由及胡亂人ノ生所姓名等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署交番所ノ内ヘ通報スヘシ其他異變アルハ總テ本條ニ從フヘシ

但時機ニ因リ監守人ヨリ宿直官ニ通報スルト全時直ニ警察署又ハ分署交番所ノ内ヘ通報セシムルモ妨ナシ

第八條

監守所ニハ日誌ヲ設ケ置キ日々當番ノ監守人姓名及交代ノ時限郡書記巡查巡視ノ時限其外當番中取扱ノ事件詳細記載セシメ毎翌日之ヲ出納係ニ差出サセ係長調査檢印スヘシ

第九條

監視所ハ火ノ元別テ念入近傍出火ノ節ハ一層嚴重監守セシメ并交代ノ節々立會金庫ノ封ハ勿論其他諸道具受渡ヲナサシムヘシ且飲酒其他猥ケ間敷儀ハ監ク禁止スヘシ

第十條

現金蓄藏中ハ巡查時々回視相當保護ノヲ所轄警察署又ハ分署交番所ノ内へ照會スヘシ  
○明治十三年十二月六日郡乙第百號 郡役所  
各郡金錢納拂直取扱規則別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

現金收支直取扱規則

第一條

各郡役所ニ於テ金錢預リ人ニ事故アリテ納拂取扱方差支ルルハ其事狀具申之上改撰ヲ要ス  
可シト雖 厄事至急ニ係ルルハ預ケ金引上ケ左之各條ニ據リ取扱フヘシ  
但本條ノ顛末ハ速ニ具狀スヘシ

第二條

諸上納金及ヒ支拂金ハ現金納拂係ヲ設ケ納拂共郡役所内ニ於テ取扱フモノトス

第三條

金錢鑑定人ハ身元確實ナル者二名乃至三名雇入現金ノ取扱ヲナサシムヘシ  
但本條適當之者無之ハ鑑定方熟練之者雇入而シテ身元確實ノ保証人ヲ立サス可キモノトス

第四條

受拂帳簿ハ其納先キテ區別シ毎日受拂取扱濟之上表ヲ作り郡長並ニ現金納拂係金錢鑑定人トモ調印スヘキ者トス

第五條

金庫並ニ金箱之封緘ハ毎日郡長並現金納拂係金錢鑑定人各立會合封ヲ以テスヘシ  
但金箱ニハ每一ト箱其入記ヲ付スヘシ

第六條

金錢鑑定改メ濟ノ金員萬一價金又ハ不足金ヲ發覺シ取調之上全ク鑑定人ノ取扱方粗漏錯誤ニ出ルヲ明瞭ナルルハ其價金又ハ不足金ハ鑑定人ヨリ償却致スヘク旨相達請書ヲ取置ヘシ  
但改濟ノ金圓ハ鑑定人封緘ノ上記名捺印スヘシ

第七條

改濟ノ金錢請渡ノ片ハ改人包人封緘ノ儘流通ヲ許スヘカラス然レハ受取人ニ於テ其封緘ヲ信用シ其儘受取ハ格別ナリト雖 厄追テ價金又ハ不足金等發覺スルヲアルモ郡役所ニ於テ處分スルノ理ナシ又其鑑定人ヨリモ辨償セサルヘシ

第八條

現金ハ日々金庫ニ相納メ其管守人ハ一晝夜二名乃至四名ツ、一名一晝夜給料三、十錢以下ヲ以テ雇入嚴重不寢番ヲナサシメ辨當料一名七錢、五厘ツヲ支給スヘシ  
但郡役所ニ金庫無之向ハ相當ノ借舎料ヲ以一時民藏借入使用スヘシ

第一類 第一節 地方稅

第九條

金錢鑑定人月給ハ一人拾圓以下ヲ以テ支給シ其雇入罷免ノ月端日數ハ日割ヲ以テ支給スヘシ

第十條

金錢鑑定人並ニ金庫管守人ヘハ前各條ニ照準其心得要領ヲ差示シ請書取置クヘシ

第十一條

人民ヨリ收入スル金錢ハ改メ賃包賃トシテ其金高ニ對シ千分ノ一手數料ヲ取立仕譯書添付上納シ現金納拂取扱諸費ハ其時々明細書添付別途請求スヘシ(明治十四年十二月郡乙第八十七號ヲ以更正但書共廿二年二月訓令第三十號ニヨリ消滅)

但上納金數口ヲ通計スルモ其收入高千分ノ一二相當セル金額壹厘未滿ナル片ハ手數料ヲ領收スヘカラス

第十二條

金庫取締ノ義都テ明治十三年十一月郡乙第九十七號達預ケ金引揚中取扱規則ニ照準取締方注意スヘシ

郡役所記簿規定

○明治二十年十月二十八日訓令第二百二十二號 郡役所 郡役所金錢物品計算記簿規程別冊之通相定來十二月一日ヨリ施行ス

但帳簿摸本ハ別ニ送付ス

(別冊)

郡役所金錢物品計算記簿規程

第一條 金錢物品計算記簿ハ複記式ヲ用ユルモノトス

第二條 計簿帳簿ノ種目左ノ如シ

- 一 日記簿 (摸本第壹號)
- 二 原簿 (摸本第貳號)
- 三 計算表 (摸本第參號)
- 四 內譯簿 (摸本自第肆號至第拾號)
- 五 口別簿 (摸本自第拾壹號至第拾陸號)
- 六 物品受拂簿 (摸本第十七號)
- 七 備品臺帳 (摸本第十八號)

右ノ外所要ニ從テ設クル各種明細簿

第三條 新ニ原簿科目ヲ設置スル片ハ解疏ヲ付シテ届出ツヘシ爾後變更ヲ要スル片亦同シ(明治二十二年七月訓令第五百二十二號ヲ以更正)

第四條 本規程摸本外ニ補助簿及明細簿ヲ設クルトキハ其所要ノ事由ヲ具シ其摸本ヲ以テ豫メ知事ノ承認ヲ受クヘシ爾後其要否ニ從テ取捨スルトキ亦同シ

第一類 第一節 地方稅

第五條 帳簿ニ記載方日記簿原簿計算表ハ收支アル日ナリ限リ登記シ他ノ帳簿ト雖モ當日ヨリ三日ヲ超ユルヲ得ス

第六條 帳簿ニ記載スル所ノ金錢物品ニ係ル員數ハ總テ亞刺比亞數字ヲ用ユヘシ

第七條 帳簿ニ記載スルニハ必ス主任者及ヒ課長ノ調印郡長ノ決判アリテ信憑證據トナルヘキ憑書アルニアラサレハ之ヲ記入ナナスコトヲ得ス

第八條 帳簿ニ員數又ハ事由等ノ書損ヲナシタルトキハ正中ニ二線ヲ横畫シ正字ヲ其上ニ記入スルヲ正誤ノ法トシ漫リニ削除塗抹シ又補綴糊貼等ナズコトヲ得ス

第九條 帳簿ニ記入ノ後若シ憑書ニ誤謬アルヲ發見ストモ輒ク之ヲ訂正ナナスコトヲ得ス此場合ニ於テハ更ニ第七條ノ手續ヲ經タル訂正書ニ據リ正誤ノ記入ヲナスヘシ

第十條 帳簿ノ取締ハ主簿者自ラ之ヲ管理シ覽觀又ハ照校ヲ乞フモノアルモ安リニ展繙セシムルヲ得ス

第十一條 各種ノ帳簿日々使用ノ後ハ金庫又ハ書庫等安全ナル場所ニ納置クヘシ

第十二條 國庫第一部第二部歳入ノ如キ別ニ計算簿記ヲ規定シ證券ヲ以テ出納スルモノハ本規程ニ據ルノ限リニアラス

附則

一 従前所用ノ帳簿ヨリ改正帳簿ニ移スニハ金種類ヲ分子會計年度ニ據リテ計算整理スルモノハ元拂共總額ヲ移載スヘシ其他年度ナキモノハ殘額ヲ繰越スモノトス

○明治二十一年三月二十六日訓令第四十三號 郡役所  
 客年十月訓令第二百二十二號郡役所金錢物品計算記簿規程付屬摸本中左之通加除シ來ル二十一年度ヨリ施行ス

一 寄附資財ノ科目ヲ廢止シ該金ハ其指定ノ費目ニ編入整理スヘシ

一 第十五號摸本遞送金口別簿表面朱書繰換ノ次へ(並ニ假出)ノ四字ヲ挿入ス

一 原簿中町村共有金ノ一科目ヲ増設ス

一 各内譯簿中借方假出遞送金等顛末ノ區ヲ削除ス

○明治二十一年八月二十八日訓令第三百三十號 島廳 郡役所  
 二十年十月訓令第二百二十二號郡役所金錢物品計算記簿規程中檢了旅費收支ノ書式刪除ス

● 地方稅決算

○明治二十一年三月二十六日訓令第四十五號 郡役所  
 郡役所經費及戶長以下諸給決算規程左ノ通定メ本年四月一日ヨリ施行ス  
 但勘定帳及決算帳書式ハ別ニ配付ス

郡役所經費戶長以下諸給決算規程

第一條 郡役所經費戶長以下諸給決算ノ整理ハ此規程ニ依リ取扱モノトス

第二條 會計主務ハ郡役所經費ハ一ヶ月戶長以下諸給ハ每三ヶ月其月精算額ヲ以テ勘定帳書式第一號ヲ調整シ之ニ收支ノ證書ヲ添ヘ翌月十日限リ進達スヘシ

第三條 前月迄ノ精算額ニ誤謬ヲ發見シタルハ更正勘定帳書式第二號ヲ調整シ之ニ收支ノ証書ヲ添へ前條全時ニ進達スヘシ

第四條 其月中支拂ヘキモノニシテ事故アリ後月ニ至リ支拂ヲ要スルモノハ辨明書書式第三號ヲ調製シ其月勘定帳ニ添付スヘシ

第五條 該年度ニ屬スル收支ニシテ年度内完了セサルモノハ整理ノ爲メ翌年度五月三十一日迄收支ヲ爲スヲ得

第六條 檢査上ヨリ生スルモノハ前條期限後收支ヲナスヲ得

第七條 該年度ノ收支完結シタルハ會計主務ハ決算帳書式第四號ヲ調整シ翌年度六月二十日限リ進達シ認可ヲ受クヘキモノトス

第八條 郡長ハ該年度ノ決算報告書書式第五號ヲ調整シ翌年度七月五日限進達スヘシ但郡役所俸給置据金ハ此限ニアラス

第九條 該年度郡役所經費中俸給發餘置据拂ニ爲シタルハ翌年度へ編入スルモノトス

(第二號)

何年何月中未渡金辨明書

一金 俸給

内 郡書記何某

但出張中又ハ何々ニ付未渡

金 雇何某

一金 但何々

内 雜給

金 諸雇給

内 給仕何某

金 但何々

金 小使何某

一金 應費

内 何々

金 消耗品

内 郡書記何某

金 但筆墨料何々

第一類 第一節 地方稅

何々

合金

右ハ前記ノ事故ニヨリ未渡ニ付後月ニ於テ渡方可致此段辨明候也  
年月日

會計主務

何郡書記 氏名印

知事宛

一戸長以下諸給モ此書式ニ據ル

明治何年度郡役所經費決算報告書

(第五號)

何郡役所

一袋綴ニシテ綴目ニ郡長契印スヘシ  
一戸長以下諸給モ此書式ニ依ル

明治何年度郡役所經費決算報告書

豫算高金若干

一金若干

差引金若干

決算高

増加(減少)

豫算ニ比シ増加(減少)セシハ何費(中科)ニ於テ何々ノ由爲メ何々ニヨリ金若干又何々  
由ノ爲メ何々ニヨリ金若干其他種々事項ニ由リ金若干ヲ増加(減少)セシト雖モ何々ノ  
爲金若干其他種々ノ事項ニ由リ金若干減少(増加)セシニ由リ差引金若干ヲ増加(減少)  
シ又何費(中科)ニ於テハ云々(前文例ニ倣フ)減少(増加)セシヲ以テ差引全ク本行ノ増  
加(減少)ヲ生ス

此譯

豫算金若干

金若干

俸給

豫算ニ比シ増減ナシ

内譯

第一類 第一節 地方税



金若干  
金若干

實出額  
殘餘金置据拂

△豫算金若干  
但何々ノ爲メ此殘餘ヲ生ス

金若干

雜給

差引金若干

増加(減少)

豫算ニ比シ増加(減少)セシハ何々ノ爲メ何費小科ニ於テ金若干増加(減少)セシト雖モ何々ノ爲メ何費小科ニ於テ金若干減少(増加)セシニ由リ差引此増加(減少)ヲ生ス

内譯

△豫算金若干

金若干

何々費小科

差引金若干

増加(減少)

△豫算金若干  
豫算ニ比シ増加(減少)セシハ何々ノ爲メ何々項ノ費用増加(減少)セシニヨル

金若干

廳費

差引金若干

増加(減少)

豫算ニ比シ云々(以下前例ニ倣フヘシ)

右明治何年度本郡役所經費決算報告書面ノ通相違無之候也  
年月日

知事宛

郡長署名

○明治廿一年五月十一日訓令第七十六號 郡役所 戸長役場  
地方費証書調理規則更ニ別冊之通定メ本年度ヨリ施行ス  
但從前ノ規則ニ依リ調理濟ノモノハ訂正ニ及ハス

(別冊)

地方費証書調理規則

第一條 凡ソ地方稅部備荒儲蓄部ノ收支ヲ証明スル証書類ハ此規則ニ依リ調理スヘシ  
第二條 歲入中地租割戸數割營業稅雜種稅公儲金ハ郡役所會計主務其他ハ正當納人ノ証書  
歲出ハ總テ正當受領人ノ領收証書ニ限ルモノトス

但事實証書ヲ難徵場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル當該主任者ノ証明書ヲ以テ代用スル  
コトヲ得

第三條 証書類ハ左ノ科目ニ區分スヘシ若シ不止得場合ニ於テ兩科目以上ニ跨ルトキハ甲  
科目ヘ証書ヲ編入シ乙科目ヘ主任者ノ辯明書ヲ添付スヘシ  
但其他ノ經濟ニ跨ル証書類ハ金員事由等ヲ詳悉シタル當該主任者ノ証明書ヲ以テ代用ス

ルモノトス

一 地方稅部歲入ハ大科目歲出ハ小科目

一 備荒儲蓄部歲入歲出共ニ目ノハ項

第四條 証書類ハ總テ字畫方正ナシメ物件事由等ハ勿論算出ニ係ルモノハ其内譯等ヲ詳記スヘシ若シ誤記脱漏等アルハ朱字ヲ以テ訂正シ其本人ヲシテ証印ナサシムヘシ

但証書ヲ徴シタル後物件事由等不明ノ際發見シ本條ニ依リカタキ場合ニ於テハ當該主任者其事由ヲ具シタル辯明書ヲ添付スルヲ得

第五條 証書類ハ其本人官職(官等アルモノ)又ハ職業ヲ姓名ニ冠記シ宛名ハ特ニ指定スルモノヲ除ク外ハ其收支ヲ執行スル當該官ノ姓名ヲ記載スヘシ

第六條 証書類ノ偏小又ハ壞裂シ易キモノ等ハ之ヲ全紙ニ貼付シ主任者契印スヘシ  
第七條 派出先等ニ於テ要シタル費用ニ對スル正當証書ハ其支拂ヲナシタルモノ、精算証書ニ添付スヘシ

第八條 旅費人足賃等ノ假拂証書ハ該費精算ノ際精算書ニ添付スヘシ

第九條 精算勘定帳ニ添付スル証書類ハ全部ニ厚表紙ヲ附シ之ニ金員科目大中小及證書ノ紙數年月廳名ヲ記載スヘシ

但証書中小科目毎ニ小計ヲ附スヘシ

第十條 一周年度收支完結ニ至レハ大科目ニ類集シ証書ノ冊數ヲ朱記シ其首冊ニ年度及金

員科目大中小ヲ記載整理スルモノトス

### 地方稅會計檢査

○明治二十二年六月二十六日訓令第百二十八號 郡役所

明治二十一年五月訓令第七十九號會計檢査規程左ノ通更正ス

#### 會計檢査規程

第一條 郡吏員給料旅費及廳中諸費ノ會計檢査ハ法規ニ隨ヒ總テ此規程ニ依リ檢査ヲナスモノトス

但實況ノ檢査ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依ル

第二條 郡役所ヨリ成規ニ基キ證明スル所ノ勘定書類ハ第一部議事課ニ於テ法規例格ニ照シ其當否ヲ審査判定スヘシ

第三條 檢査上若シ會計ノ規則ニ違フモノヲ發見シタルハ第一部長ヨリ郡長ニ向テ不合規ノ旨ヲ告知スルモノトス

第四條 前條ノ告知ヲ受ケタル郡長ハ更ニ處分ノ方案ヲ詳具シ其旨知事ヘ開申スヘシ

第五條 檢査上其證明スル所ノ事實判明ナラスト思料スルハ第一部長ヨリ會計主務ニ向テ推問書ヲ發シ其辨明ヲ要ムルヲ得

沿革要領

明治十二年一月乙第四號郡長以下倭給書記定額算出法達(十四年十月郡乙第七十一號全年全月郡乙第七十四號十六年三月郡乙第十八號更正)○全年一月乙第五號戶長年俸其他給與方則達(全年三月乙第卅二號全年五月乙第八十九號全年九月乙第百八十三號七月乙第四十五號全年八月乙第五十三號更正)○全年一月乙第九號郡役所月俸規則並旅費規則達(十三年二月郡乙第十六號全年七月郡乙第五十五號十四年六月郡乙第四十四號十五年六月郡乙第卅九號十六年七月郡乙第六十一號全年十月郡乙第八十九號全年十二月郡乙第百六十七號七月一月郡乙第七號全年二月郡乙第十一號全年二月郡乙第十七號全年全月郡乙第二十一號全年六月郡乙第六十八號更正)○全年三月乙第四十號郡役所金銀取扱人抵當金銀公債証價格積算方達○全年四月乙第七十九號戶長職務取扱費支給方達○全年五月乙第九十三號郡書記給料額取調毎月報告セシム○今年六月甲第九十七號地租割戸數割徵收規則布達(今年七月甲第百二十一號十三年五月甲第七十六號十五年七月甲第百二十一號更正)○全年六月乙第百五號郡役所現金取扱人命令書及請書式達(今年八月乙第百六十二號全年十月乙第二百五號十三年二月郡乙第十二號十四年七月郡乙第四十八號十七年七月郡乙第八十一號更正)○全年六月甲第百三號營業稅雜種稅課目課額並徵收規則布達(十三年二月甲第二十一號更正)○全年六月甲第百四號營業稅採藻稅課額並徵收規則布達(十八年六月甲第百十六號更正)○全年六月乙第百十七號營業稅雜種稅規則取扱手續達○全年六月乙第百十八號營業稅採藻稅規則取扱手續達○全年八月甲第百六十四號官有地ハ官用ト貸地トヲ問ハス地方稅ヲ課セス協議費ヲ出スヘキ旨達○全年九月甲第百六十五號戶數割協議費ヲ民等ニ課スルモノハ各本人ノ領承印ヲ徵シ置クヘキ旨達○全年十二月甲第百四十三號全年甲第百六十四號ノ件更定○十三年二月郡乙第十七號油絞蠟其他課稅方法達○全年五月郡乙第四十二號郡役所金銀預入進退何手續達○全年六月甲第百六號營業稅雜種稅課額並徵收規則布達(今年十月甲第百六十七號更正)○今年六月甲第百八號地方稅營業看板雜形ヲ定メ郡役所ノ燒印ヲ受ケ揭示スヘキ旨布達○今年六月郡乙第五十二號營業稅雜種稅規則取扱手續達○今年七月郡乙第五十六號戶長年俸其他給與ニ用フル町村位數調方更正○今年七月乙第四十六號戶長後俸給及職務取扱費支給方更正○今年七月郡乙第六十六號皆濟帳進達方達○今年八月乙第五十三號戶長以下旅費定則達(十四年三月乙第二十號全年八月乙第五十四號十六年十月乙第

百三十號更正)○今年九月乙第六十號戶長以下給料支給規則達(十四年三月乙第二十一號十五年六月乙第六十三號十七年八月乙第百四號更正)○今年十月郡乙第八十三號郡役所戶長後俸給費豫算調方達(今年十月郡乙第八十七號更正)○全年十月郡乙第八十五號特任條件ニ係ル諸費ハ別途下付ヲ廢シ郡役所經費ヨリ支弁スヘキ旨達○十四年九月甲第百五十二號十四年度營業稅雜種稅課目課額並徵收規則布達(今年十月甲第百六十四號全年十二月甲第百八號更正)○十五年二月乙第二十一號每年一月一日現在戶數取調書式達○今年六月甲第百一十一號十五年度營業稅雜種稅課額並徵收規則布達○今年十一月郡乙第七十三號戶長年俸其他給與規則ニ用フル町村位數調方更定○十六年三月甲第百三十八號町村會規則制定伺濟町村八十二年甲第百六十五號布達消滅ノ旨布達○今年三月郡乙第二十五號收入積算調期限達(二十年九月訓令第百十號更正)○今年五月甲第百五十三號十六年度營業稅雜種稅課目課額布達○今年五月甲第百五十五號地租割戸數割徵收規則改定及十二年甲第九十七號布達第二三條廢止○今年六月甲第百五十七號營業稅雜種稅徵收規則更定(十三年甲第百八號布達廢止(十八年六月甲第百三號更正)○今年六月乙第八十八號戶長年俸其他給與方則更定(十七年三月乙第五十六號更正)全年六月郡乙第五十三號郡書記月俸掃費金遺拂報告ノ件達○今年七月郡乙第六十三號十二年乙第四號ヲ廢シ郡書記俸給額全定額算出法ヲ定ム(十八年五月郡乙第卅一號更正)○今年九月甲第八十八號十六年中第五十五號戶數割ヲ地價割ニ課當ス可カラサル旨布達○十七年五月甲第五十一號十七年度營業稅雜種稅課目課額布達(今年五月甲第五十五號更正)○今年五月郡乙第五十八號地方稅上納仕譯書雜形達○今年五月郡乙第六十五號皆濟帳雜形更定(十三年郡乙第六十六號達廢止(今年六月郡乙第七十六號更正)○今年八月乙第百四號戶長以下給料支給定則更定(十九年六月乙第八十九號更正)○今年八月乙第百五號戶長以下旅費定則更定○今年八月乙第百六號戶長後俸給以下給料配賦定率達○全年十月郡乙第百四十號記帳簿類調理規則達(十八年三月郡乙第廿四號更正)○全年十二月郡乙第百七十一號十二年乙第九號中旅費定則廢止旅費日當額表達(十八年六月郡乙第四十四號全年十月郡乙第八十一號更正)○今年十二月乙第百九十二號全年乙第百五號ヲ廢シ旅費日當額表ヲ定メ支給方ハ九年第六十四號公達ニヨラシム(十八年四月乙第五十八號全年六月乙第九十三號更正)○十八年一月郡乙第五號地方稅支出科目條例達○今年四月甲第八十二號十七年度營業稅雜種稅課目課額追加布達○今年六月乙第九十二號無位ノ士民戶長ニ採用ノ旨旅費支給方達○今年六月郡乙第四十三號郡役所現

第一類 第一節 地方稅

金出納順序達(廿年十月訓令第二百廿六號廿一年三月訓令第四十六號更正)○全年九月郡乙第七十六號郡役所戶長役場豫算決算取扱順序達(十九年訓令十一月第九十一號更正)○全年九月乙第百廿三號地方稅經濟ニ屬スル寄附金處分手續達(十九年三月郡乙第三十七號更正)○全年十二月甲第百七十三號十九年度營業稅雜稅課目課額布達○十九年一月甲第六號地租割戸數割徵收規則更正○全年二月甲第百十八號營業稅雜稅課目課額更正○全年二月甲第廿三號營業稅課目課額布達○全年二月甲第廿八號營業稅雜稅徵收規則布達○全年三月乙第二十一號地方稅徵收規則取扱手續達(全年三月乙第三十三號全年全月乙第三十八號更正)○全年五月郡乙第四十三號地方稅雜收入中郡吏員戶長給料旅費等ノ雜入三ヶ月取額上納方達○全年十二月縣令第六十三號二十年度營業稅雜稅課目課額ヲ令ス(二十年三月縣令第三十七號更正)○二十年二月訓令第四十六號郡役所戶長役場經費費任課書式訓令○全年三月縣令第二十號營業稅雜稅徵收規則更正○全年三月訓令第七十六號地方稅徵收規則取扱手續更正○全年四月縣令第四十八號營業稅雜稅徵收規則中普通額ヲ課スル營業者稅額決定迄假看板ヲ掲ケ營業スルヲ得セシム○全年八月訓令第百九十四號十八年乙第百二十三號達廢止○全年八月訓令第百二十一號營業稅雜稅不納欠損取扱手續訓令○廿一年一月縣令第四號二十一年度營業稅雜稅課目課額ヲ定ム(全年九月縣令第九十二號更正)○全年一月縣令第十七號營業稅課目課額更正○全年二月縣令第二十四號營業稅雜稅徵收規則更正○全年二月縣令第廿五號營業稅課目課額更正○全年二月訓令第二十六號地方稅徵收規則取扱手續更正○全年四月訓令第五十八號十八年乙第七十六號廢止○全年七月訓令第百二十九號二十年訓令第四十六號廢止○全年八月訓令第百二十二號十八年乙第五號達廢止○二十二年六月訓令第百十八號二十一年內務省令第四號ニヨリ從前ノ通事務取扱ヲ爲シタル戶長以下給料支給方訓令○全年八月訓令第百六十七號郡吏員給料殘額據證金廢止

三 備荒儲蓄

● 備荒儲蓄法實施手續

○明治十八年五月二十六日甲第九十五號

備荒儲蓄法實施手續縣會ノ議決ヲ徵シ內務大藏兩卿ノ許可ヲ得テ別紙之通相定候條此旨布達候事

但明治十六年七月本縣甲第六十四號全十七年九月甲第百二十五號布達及全年三月甲告第六十六號告示ハ廢止ス

(別紙)

備荒儲蓄法實施手續

- 第一條 公儲金徵收ノ額ハ地租拾圓ニ付貳拾貳錢トス
- 但本項ハ納期現在ノ地所ニ賦課シ追テ地種變更スルモ追徵還付ハナサ、ルヘシ
- 第二條 徵收ノ期ハ地方稅地租割納期ト同一トス
- 第三條 徵收方ハ戶長ニ於テ當期地方稅ノ割符書ニ外何程備荒儲蓄金ト記載シ地租割ト同一ニ收入シ然ル後之ヲ取分ケ上納ノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 公儲金不納處分及免除等ニヨリ欠額ヲ生シ該年度政府ノ配付金ヨリ不足スル片ハ翌々年度ニ於テ之ヲ補充スルモノトス(明治二十一年一月縣令第二十號ヲ以更正第五條第六條第七條第九條第十條第十一條第十二條第二十四條トモ)

第五條 給與補助或ハ貸與ヲ受ケタルモノハ罹災ノ年度ニ限り公儲金未納額ヲ免除スヘシ  
第六條 儲蓄ハ公債証書現金及米穀ノ三種トス

但米穀ハ時宜ニヨリ儲蓄スルモノトス此場合ニ於テハ縣會ノ議決ヲ經ヘシ

第七條 凡ソ半ケ年間費消スヘキ金額ヲ積算シテ現金ヲ豫備シ臨時引出ニ差支ナキ契約ヲ以テ相當ノ抵當ヲ取り左ノ銀行會社ノ内へ定期預トナシ其他ハ總テ公債証書ニ交換スヘシ

但預金ニ對スル抵當ハ必ス公債証書タルヘシ

第五十三國立銀行

第三國立銀行松江支店

第一人參製造會社

石見國產紙會社

第八條 前條公債証書若クハ米穀購求方差支アルトキハ前條全條ノ手續ヲ以テ定期預トナスヘシ

第九條 儲蓄米ハ壹萬石以内トス其儲藏場所及步合左ノ如シ

松江 六步

濱田 四步

第十條 前條儲蓄米ヲ購入賣却スルニハ公ノ入札ヲ以テスヘシ

第十一條 儲蓄米ハ年ノ凶歉ニ遭遇シ人民食料ニ欠乏ヲ告グルカ如キアルハ便宜拂下クルヲアルヘシ

第十二條 公債証書現金及米穀ハ知事之ヲ管掌スヘシト雖モ米穀ハ儲藏倉庫ノ都合ニヨリ

郡長ヲシテ管掌セシムルヲアルヘシ

第十三條 罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサルモノ、食料ヲ給スルハ男一日米三合全七十年以上十五年以下米二合女一日米二合共日數ハ三十日以内其地前月下米平均相場石代ヲ以テ下付スヘシ

第十四條 酷烈ノ災害ニ罹リ其情況不得止片ハ最寄ノ場所ニ小屋掛ヲナシ第十三條制限以内ヲ以テ焚出米ヲ給スルヲアルヘシ其日數ハ十日以内トス尤其雜費ハ總テ儲蓄金ヲ以テ支辨スヘシ

第十五條 罹災ノ窮民ニ小屋掛料及ヒ農具料種穀料支給ノ方法ハ備荒儲蓄法第六條ニ照準シ實地ノ事情ヲ審查シ其幾分ヲ減少スルヲアルヘシ且種穀料ハ其地前月上穀平均相場ヲ以テ支給スルモノトス

第十六條 罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニ非サレハ地租ヲ納ムル能ハサルモノニ其租額ヲ貸與スルハ五ケ年以内ノ年賦ヲ以テ無利返納トシ其借用証書ヲ出サシムヘシ

第十七條 其災害酷烈ナルカ又ハ連年ノ罹災等ニテ年賦返納ノ目途ナキモノハ其地租ノ幾分又ハ其全額ヲ補助スルヲアルヘシ

第十八條 罹災ノ爲救助ヲ願出ントスル者ハ三十日以内補助貸與ヲ願出ントスル者ハ其補助貸與ヲ要スル地租ノ納期三十日以前タルヘシ  
但罹災ノ時納期三十日以内ニ切迫セルモノハ此限ニアラス

第十九條 地租ノ貸與金ハ毎年度地方稅徵收末期市街第二期郡ニ返納セシムルモノトシ事  
故ナク返納ヲ怠タルモノハ其筋ノ裁判ニ付スヘシ

第二十條 地租ノ貸與ヲ受ケタル後復ヒ災害ニ罹リ又ハ戶主疾病餘ノ家人老幼ノミニシテ營  
業ヲナス能ハサル等窮困必迫ノモノハ審査ノ上其返納ヲ猶豫シ又ハ免除スルコトアルヘシ  
第二十一條 地租貸與年限内ニ該地幾分ヲ分劃賣却スルハ其地所ニ係ル貸  
與金額ハ其証書ハ戶長公証ノ日ヲ以テ一時ニ返納セシムヘシ

第二十二條 貸與年限内該地幾分ヲ分劃ヲ讓與セントスルハ其地所ニ係ル貸與金額ヲ一時  
ニ返納スルモ又ハ讓受人ニ於テ其引受年期ニ隨ヒ返納スルモ妨ナシト雖モ此場合ニ於テ  
ハ借用証書ノ書換ヲ乞ハシムヘシ

第二十三條 米穀蓄積費用ノ豫算ハ總テ該年ノ縣會ニ付シ其決議ニヨリ實行スヘシ

第二十四條 知事ハ前年度儲蓄米金出納ノ精算ヲ其年通常縣會ニ報告シ及管内ニ告示スヘシ  
第二十五條 前條々ノ手續ニヨリ累年施行スヘシト雖モ改良修正ヲ要スルコトアルハ縣會ノ  
議決ヲ取り成規ニ照ラシ施行スヘシ

● 徵收取扱手續

○明治二十一年二月二十四日訓令第二十七號 郡役所 戶長役場  
備荒公儲金徵收ニ關スル取扱手續ハ惣テ本年二月本縣訓令第二十六號ノ内地租割ノ例ニ據リ  
取扱フヘシ

○明治二十一年三月二十六日訓令第四十四號 郡役所 戶長役場

本年二月訓令第二十七號ヲ以テ備荒公儲金徵收方發布候處獨リ皆濟帳進達期限ノ義ハ戶長  
役場ハ翌年一月郡役所ハ翌年二月トス

但二十年度分ハ本年三月限り進達スヘシ

● 罹災究民救助等ニ關スル願式並取扱手續

○明治十四年一月三十一日甲第十五號

客年太政官第三十一號公布及本縣甲第九十九號布達ニ付水火風震旱蝗等ノ災厄ニ罹リ目  
下凍餒ニ迫ル者ハ右布告布達ノ制限ニ據リ一時救助スヘシト雖モ罹災ノ爲小屋掛料農具料  
種穀料且地租ノ貸與又ハ補助等ハ總テ其災害ノ厚薄及本人ノ貧富等篤ト審査ノ上可及詮議  
次第有之候條此旨豫テ相心得自今災厄ニ罹ル者ハ別紙第一號第二號書式ニ準據可願出尤地  
租ノ貸與及ヒ補助等願出然シテ貸與聽許ノ指令ヲ得ルモノハ第三號書式ニ照準シタル証書  
郡役所ヲ經由可差出此旨布達候事  
第一號書式

何災ニ罹リ小屋掛料(農具料)(種穀料)御給與願

私共儀

過ル何月何日何災ニ罹リ家屋(農具)(種穀共)流失(蕩燼)目下窮迫罷在候處豫テ赤貧云々ニ  
付小屋掛料(農具料)(及ヒ種穀料)別紙之通御給與被成下度此段親戚連署日長與印ヲ以奉願

第一類 第一節 備荒儲蓄

候也

年號 月 日

何郡何町(村)何番屋敷

族 籍

何 條 何 某

家 族 何 人

族 籍

親 戚 何 條 何 某

縣 令 宛

戶長與書例之通

別 紙 △此書式ニ準シ幾人ニテモ順次書キ續クヘシ  
 何村何番屋敷 何 條 何 某

一金何圓 小屋掛料  
 一金何圓 農具料

内  
 金何十錢 鍬 何挺  
 金何十錢 鎌 何挺  
 金何十錢 馬 何挺  
 金、、、 馬 何挺  
 金、、、 鍬 何挺  
 合金何圓

總計何圓

第二號書式

何災ニ罹リ地租御貸下(御補助)願

私儀

第一類 第一節 備荒儲蓄

過ル何月何日何災ニ罹リ何々(流失)(蕩燼)ニ係リ本年分(田方)(畑方)地租貢納難致依之別紙ノ通所有ノ財品賣拂候モ猶不得償却候間右不足金高御貸下(御補助)被成下度親戚連署戸長與印ヲ以此段奉願候也

年號 月 日

何郡何町(村)何番屋敷  
族 籍 何 條 何 某

何郡何町(村)何番屋敷

族 籍

親戚 何 條 何 某

縣 令 宛

戸長與書例之通

別 紙

何郡何町(村)何番屋敷

族 籍

何 條 何 某

所有耕宅地反別何程

外ニ山林何程立木松杉雜木  
此地租金何圓

此處ニ

金何圓

差引

金何圓

所有財品賣却代

地租貢納不足高

第三號書式

証

一金

但明治何年七月ヨリ向フ明治何年六月マテ何年賦

何災ニ罹リ地租御貸下金

每年金若干宛  
末年金若干

右者明治何年何月中何災ニ罹リ地租上納難相成ニ付依願首標之金額御貸下被成下正ニ奉請取候然ル上者前記ノ通年々御成規ニ隨ヒ返納可仕候依之戸長與印ヲ以証書如件

何郡何町(村)何番屋敷

族 籍

第一類 第一節 備荒儲蓄



年號 月 日

何 條 何 某

縣 令 宛

戶長與書例之通

○明治十九年九月二日訓令第十五號 郡役所

備荒儲蓄法實施手續ニ據リ罹災窮民救助及地租補助貸與願ニ關スル取扱手續左之通相定ム

第一條 水火風震等ノ災害ニ罹リ自ラ生存スル能ハサル窮民アルハ實施手續第十三條ニ

據リ給與方施行シ速ニ其狀況ヲ具申スヘシ尤其日數ハ十五日間日出米ヲナシタル日數モ包含スト

シ其餘尙救助セサルヘカラスト認ムル場合ニ於テハ伺出指揮ヲ乞フヘシ但其費用ハ郡役

所經費ヲ以テ一時繰替支出スヘシ

第二條 全上酷烈ノ災害ニ罹リ情況不得止場合ニ於テハ全手續第十四條ニ據リ小屋掛ヲ爲

シ若クハ焚出米ヲ給スヘシ而シテ其狀況具申及費用繰替ノ手續ハ前條ニ全シ

第三條 小屋掛料農具料及種穀料給與出願ノモノアルハ小屋掛料農具料ハ其金額ノ當否ヲ

審査シ種穀料ハ本人ノ情願及戶長ノ具狀書ヲ審査シ被害ノ狀況ハ勿論其地普通種穀ノ量

當反歩 及前月上穀代價取調副書ヲ以開申スヘシ

但本願聽許ノ上ハ其金員ハ速ニ郡役所經費ヲ以繰替下付スヘシ

第四條 地租ノ貸與補助ヲ願出ルモノアルハ本人ノ情願及戶長ノ具狀書ヲ審査シ尙速ニ

吏員ヲ實地ニ派遣シ篤ト被害ノ狀況及願人身元ノ厚薄等ヲ取調年限金額等願意當否ノ意  
見ヲ付シ副書ヲ以進達スヘシ

●米穀購入並拂下入札規則

○明治廿年十月五日告示第五百十六號

明治十七年三月甲告第六十四號告示中備荒儲蓄米穀購入並拂下入札規則別紙ノ通更正ス

(別紙)

備荒儲蓄米穀買上並拂下入札規則

第一條 備荒儲蓄米穀ヲ買上又ハ拂下ントスルハ豫メ新聞紙又ハ他ノ方法ヲ以テ廣告ス

ヘキニ付望ノ者ハ此規則ニ從ヒ入札スヘシ

但廣告ノ時限ニ後レ及ヒ書式不充分又ハ實印ヲ押捺セサル等惣テ調査上差支アリト認

ムル入札ハ採用セサルヘシ

第二條 入札ハ別紙甲乙號書式ノ通り字畫方正ニ認メ若シ書損シタルハ懸紙ヲ以必ス實

印ヲ押捺封印シ表書ニモ住所姓名ヲ記スヘシ開札ノ上書換又ハ違算等申立ツルモ一切採

用セサルヘシ

但書損ニヨリテ普通賣買相場ヨリ五割以上ノ増減ヲ生シタリト確認スルハ臨時詮議

ノ上除札スルヲアルヘシ

第三條 入札人ハ入札保證金トシテ一封ニ付金拾圓本應又ハ入札ヲ受付クル郡役所ノ爲換

第一類 第一節 備荒儲蓄

方預券ヲ以テ入札ニ添へ差出スヘシ且ツ該金ハ落札人ハ身元金ニ差繼キ其他ハ開札后ニ返付スヘシ

第四條 買上ハ入札毎ニ見本米一合以上ヲ添フヘシ落札ノ上現米受渡ニ際シ見本米ヨリ性劣ノモノハ勿論更痛澤手米等一切納入スルヲ許サス但見本米審査ノ上若シ貯藏ニ不適當ナリト認ムルモノハ其入札ヲ除却スヘシ

第五條 拂下ハ入札人ノ望ニ應シ豫メ其貯藏米實見セシムヘキニ付現穀受渡ニ際シ一切異議ヲ唱フルヲ得ス

第六條 開札ハ指定ノ日時豫メ廣告セシ場所ニ於テ當該官吏二名以上立會執行スヘキニ付入札人一全登場スヘシ後日ニ至リ該入札ノ事ニ關シ一切異議ヲ唱フルヲ得ス

第七條 買上ハ最低札ヨリ拂下ハ最高札ヨリ落札ト定メ石數ノ計算ニヨリ入札高ノ幾分代價同キ片ハ抽籤ヲ以テ定ム若シ落札人ヨリ免除申出ルカ第九條ノ期限内ニ受書若クハ身元金ヲ差出サ、ル片ハ順次次札ヲ以テ落札ト定ム此場合ニ於テハ次札トノ間金ヲ辨償セシムルモノトス

但間金ヲ辨償セシムル片ハ入札保證金ハ差繼キ計算スルモノトス

第八條 落札代價不相當ト認ムル片ハ該入札ハ取消シ更ニ入札ヲナサシムルヲアルヘシ

第九條 落札人買上又ハ拂下ノ違ヲ受ケタル片ハ二日以内ニ別紙丙丁號書式ニ據リ受書差出シ尙受書差出シタル日ヨリ三日以内ニ身元金トシテ其買上又ハ拂下代價百分ノ五ニ當

ル金額ヲ上納スヘシ

第十條 買上代金ハ現米領收ノ上相渡スヘク拂下ハ其地爲換方ノ現金預券ト引換ニ現米引渡スヘシ

但本人ノ都合ニヨリテハ其期日內幾度ニモ受渡セシムルヲアルヘシト雖前條ノ身元金ハ其結末ニアラサレハ差繼上納又ハ返付ヲ許サルヘシ

第十一條 落札人ハ豫定日限<sup>日限ハ本願ノ指</sup>迄ニ必ス受渡結了スヘシ若シ日限迄ニ結了セサル片ハ更ニ次札ヲ以テ落札ト定ム次札ニ於テ免除ヲ申出ル片ハ總テ第七條ノ例ヲ適用ス

但本條ノ場合ニ於テ身元金ハ還付セサルモノトス尤モ天災ノ如キ人カヲ以テ防禦シ得ヘカラサル災害ニ罹リタル顯証アルモノハ還付スルヲアルヘシ

(甲)

米穀買上ケ入札

(米買或ハ產地異ナル毎ニ別封トナスヘシ)

某所某米倉納

一現米何石

何國何郡何村産

但一俵四斗入ニ仕立米一石ニ付代金若干

右ハ今般御廣告ニ付前書代金ヲ以テ納方受負仕度候間御買上被成下度素ヨリ備荒儲蓄米穀受渡規則及ヒ買上並拂下入札規則承知入札仕候也

第一類 第一節 備 荒儲蓄

國郡町村番地族籍

年月日 姓 名 印

(乙)

米穀御拂下入札

某所某米倉蓄積

一現米何石

(産地毎ニ列記シ別封トナスニ及ハス)

何國何郡何村産

但米一石ニ付代金若干

右ハ今般御廣告ニ付前書代金ヲ以テ引受度候間御拂下被成下度以下全前

(丙)

御請書

某所某米倉納

一現米何石

何國何郡何村産

代金若干

但一俵四斗入ニシテ米一石ニ付代金若干

右ハ今般御買上相成候ニ付入札仕候處落札ノ旨御達ノ趣承知仕候就テハ本縣借荒儲蓄米穀買上並拂下入札規則及同上受渡規則ヲ遵奉シ身元金若干圓ハ御規則ノ通上納仕尙何月何日以内無相違受渡結了可仕候依之保証人連署受書差上候也

年月日

國郡町村番地族籍

賣上人 姓 名 印

知事宛

保証人

(丁)

御請書

某所某米倉蓄積

一現米何石

何國何郡何村産

但代金若干米一石ニ付代金若干

右ハ今般御拂下以下同前但賣上人ヲ拂受人トスヘシ

沿革要領

十三年十二月甲第百九十九號備荒儲蓄法實施手續布達○十四年二月甲第二十一號當分種穀料ヲ給セサル旨布達○全年五月乙第三十三號前納願出ノ取扱方達○全年十月甲第百五十五號實施手續更定(十六年六月甲第十三號更正)○全年十月甲第百六十八號十四年甲第二十一號布達廢止○十五年八月甲第百二十七號實施手續更定(十六年六月甲第十三號更正)○十六年五月郡乙第卅七號每年度皆濟仕課書進達方達(十九年三月郡乙第二十六號更正)○全年七月甲第六十四號實施手續更定本年度以後累年施行ス(十七年七月甲第八十二號更正)○十七年三月甲告第六十四號米穀購入並ニ拂下入札規則及ヒ受渡規則告示(二十年二月告示第四十四號更正)○全年三月甲告第六十六號儲蓄米購入法告示○全年

九月甲第百二十五號預金簡所布達○二十年四月訓令第百四號記帳手續ヲ定ム○全年九月訓令第百十二號徵收取扱方ヲ定メ及十七年郡乙第三十七號逕廢止

四雜

○明治十九年五月十一日郡乙第四十二號 郡役所  
郡役所不用物品ハ公ノ入札ヲ以テ賣却スヘシ此旨相達候事  
○明治二十年八月十二日訓令第百九十五號 郡役所  
地方稅ヲ以テ施行スヘキ事業ニ對スル人民寄附金<sup>警察ニ關スル</sup>ハ縣廳ニ於テ寄附願許可ノ  
后郡役所ニ上納セシメ一ヶ月分取纏メ上納証書ニ仕譯書ヲ添附シ翌月十五日限上納スヘシ

第二節

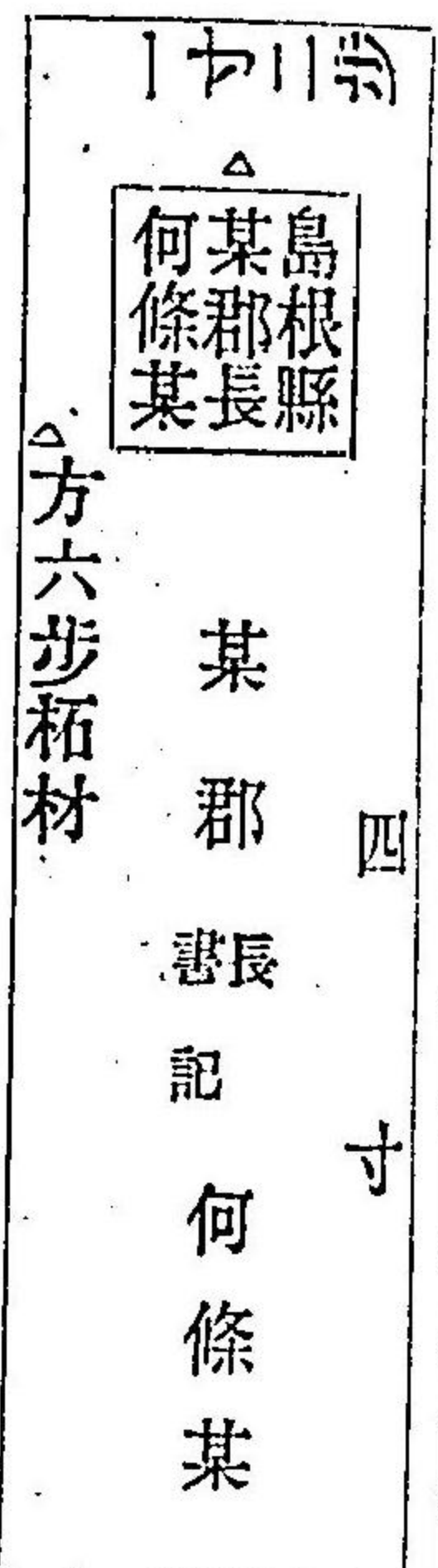
一官紀

● 戶長學校職員席次

○明治十六年十一月十九日乙第百五十四號 郡 町村  
 戶長及ヒ府縣立町村立學校職員ノ席次ハ其官等ニ依リ同等官及ヒ其官等相當ノ俸給ヲ受ル  
 無等判任官ノ下席トス  
 但戶長ト學校職員ト同等ナル時ハ戶長ヲ以テ上席トス  
 右相達候事  
 但本縣本年<sup>三</sup>乙第三十六號達ハ消滅ス

● 官印

○明治十二年一月十日乙第七號 郡役所  
 郡長並書記トモ該役所定額金ノ内ヲ以テ左式ノ通役印彫刻上申下達等ノ公用文書ニ相用フ  
 ヘシ此旨相達候事  
 但印彫可差出事  
 (印彫屆書式)



明治十九年九月訓令第二十五號  
 ナ以郡長官印ハ自今方七分  
 更正ス

● 待罪書式

○明治十年五月二十四日乙第五十號 各區區戶長  
 職務上過誤失錯ニ係リ進退伺出候節待罪書或ハ連署或ハ他ノ區戶長與印差出候向有之不都合ニ候條自今左ノ書式ニ照準シ各自ニ認メ正副二通ツ、差出候儀ト可相心得事  
 (書式)

待罪書

私儀

何々<sup>過失ノ類ニ認ムヘシ</sup>願末詳奉恐縮候依之身分進退ノ儀如何相心得可申哉謹テ奉待罪候也

區職名

何條誰印

年月日

長官宛

● 官吏服務紀律禁止條項中許否

○明治二十年九月七日訓令第二百八號 郡役所 戶長役場

勅令第三十九號官吏服務紀律ニ於テ本屬長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ禁止セラレタル條  
項中第六條第十一條ニ限リ郡役所雇ニ關スルモノハ郡長ニ於テ許否シ戶長役場用係筆生ニ  
關スルモノハ戶長ニ於テ許否スヘシ

二 恩給 叙勳

● 賞勳 年金

○明治十七年一月十五日乙第五號 郡 町 村

賞勳年金渡方手續概則別紙之通候條年金拜受者へ無遺漏達方可取計此旨相達候事  
但明治十二年九月本縣乙第九十六號達ハ廢止ス

年金渡方手續概則

第一款 賞勳局ハ有功受賞ノ本人へ年金下賜ノ儀達シ濟ミノ上年金票ヲ同時ニ本人へ付與  
スヘシ

第二款 賞勳局ハ年金下賜ノ時々何月幾日某官某名某府縣原籍ヲモ書載ス勳何等ニ叙セラレ年金若干  
ヲ賜リ第何號ノ年金票ヲ下賜セラレタル旨及ヒ受賞人ヨリ申立タル年金受取場所共詳細  
大藏省へ通報シ同省ニ於テハ此通報ヲ得ルヤ直チニ該金額渡方取計ヘキ地方廳へ通達ス  
ヘシ

第三款 年金ハ本人管轄廳又ハ寄留ノ地方廳ノ内イツレニ於テモ其便ニ從ヒ受取得ヘキモ  
ノニ付受賞ノ本人ハ此金票ヲ該廳へ持參シ現金ヲ受取ルヘシ若シ他人ニ代理ヲ命セハ委  
任狀ヲ附シテ之ヲ該廳ニ示スヘシ

第四款 本人又ハ代理此金票ヲ持參セハ其管轄廳又ハ寄留ノ地方廳ニ於テハ之ヲ檢査シ其  
票一紙ヲ以テ本人終身金額ヲ受取ルヘキ管ニ付票上證明ノ金額渡濟ミノ上本票ハ之ヲ持

參セシ受取人へ附還シ別ニ金額ノ收証ヲ出サシム

第五款 地方廳ニ於テハ別ニ一帳ヲ製シ置年金額シ高月日受取人姓名等明細ニ記シ毎年六月十二日現金渡シ濟ミノ上成規ノ通勘定帳ヲ大藏省へ差出スヘシ

第六款 年金ハ每年上半ケ年分ヲ六月一度ニ下半ケ年分ヲ十二月一度ニ地方廳ニテ附與スルヲ例トス

第七款 年金ハ一月以降六月三十日マテノ日付年金証ヲ受タル者ハ上半年分ノ金額ヲ給シ七月ヨリ以降十二月三十一日マテノ日付年金証ヲ受ケタル者ハ下半年分ノ金額ヲ給スルヲ例トス

第八款 地方廳ニ於テ大藏省ノ達ヲ得ハ其金額ハ第六款ニ據リ同省へ請求スヘシ

第九款 勳等年金拜受ノ者其年金授受ノ順序ハ左ノ如シ(明治十九年四月大藏省令第十一號ヲ以更正)

一 受賞人ノ請願ニ依リ其本官廳又ハ寄留ノ地方廳ニ於テ渡方取計フヘシ因テ金票拜受ノ際金額ノ受取場所ヲ賞勳局へ申立賞勳局ハ之ヲ大藏省へ通牒シ大藏省ハ之ヲ該廳へ達スヘシ

二 年金受取場所ノ轉換ヲ要スルトキハ其旨本人ヨリ受取期月ノ前々月盡日迄ニ現交付ノ地方廳へ願出ツヘシ該廳ハ此ヲ聞届ケ速ニ轉換先ノ地方廳へ通牒シ其旨直ニ賞勳局及大藏省へ届出ヘシ

三 年金受取場所轉換願出ノ期限ハ前項ニ據ルヘキモノト雖モ右期限後公務ノ爲メ年金

附與ノ期節ニ際シ轉換ヲ要スルトキハ現交付ノ地方廳へ願出ヘシ該地方廳ハ聞届ノ上其旨速ニ賞勳局へ届出ヘシ

但大藏省及新主官廳へ報告方ハ本年三月大藏省令第五號歳出取扱順序第七十九條ニ據ルヘシ

第十款 年金受領ノ本人死去スル時ハ其死去ノ日一月以降六月マテニ在ルモノハ上半ケ年分七月以降十二月マテニ在ルモノハ下半ケ年分ヲ給スヘシ但シ其年金票ハ最終ノ下付金ヲ給スル時地方廳へ之レヲ收シ地方廳ヨリ賞勳局ニ還納スヘシ賞勳局ハ之レヲ大藏省へ通牒スヘシ

第十一款 勳等年金拜受ノ者事故アリ姓名ヲ改メシハ本籍戸長ノ與印アル届書ヲ本人所有年金証ニ添へ現受取場所ノ地方廳ニ出スヘシ地方廳ニ於テハ之ヲ認可シ該年金証ノ裏面ニ何年何月何日改姓名セシヲ簡明ニ記入シ長官之ニ名印シテ本人ニ却付ス而後地方廳ハ其事由ヲ賞勳局及ヒ大藏省ニ届出ヘシ

但年金拜受以來ノ改姓名ニ係ル者ハ都テ此手續ニ據ルモノトス

第十二款 勳等年金拜受ノ者水火災或ハ盜難ニ罹リ又ハ遺失等ニテ所有ノ年金証紛失ニ及フコトアラハ即時ニ該証ノ寫シ全文其寫シヲ所持ナキ者ハ何號何額ノ年金証如何ナル事由ニ依テ紛失ニ及ヒタル次第ヲ詳記シ代リ年金証請求方ヲ年金受取場所ノ地方廳へ願出スヘシ地方廳ニ於テ右ノ願書ヲ受取ルハ其旨賞勳局へ申請シ且同時ニ紛失ノ旨大藏省

へ届出スヘシ然ルトキハ賞勳局ニ於テ前証ニ代ユヘキ新証ヲ作り該地方廳ヲ經テ本人へ付與セシムヘシ尤新証ヲ付與セサル間ハ本人ノ年金渡方ヲ停止ス依テ其間ニ相渡スヘキ年金ハ新証ヲ付與シタル次ノ拂渡期月ニ一同之ヲ相渡ズヘシ

但本文紛失ノ年金証ハ發覺次第本人ヨリ其管轄廳へ差出シ該廳ヨリ之ヲ賞勳局へ差出スヘシ

第十三款 勳等年金拜受ノモノ其勳章及年金ヲ褫奪セラレ又ハ勳章及年金ヲ停止セラレタル時ハ其區分左ノ如シ

一 重罪輕罪ノ訴ヲ受ケテ拘留ノ後保釋責任亦同シ勳章褫奪セラレタルモノハ其拘留セラレシ日ヨリ年金ヲ止ム

二 明治十六年第三十九號達第一條第二項第三項ニ依リ勳章ヲ褫奪セラレタルモノハ其褫奪ノ日ヨリ年金ヲ止ム

三 輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレ勳章褫奪ニ至ラサルモノハ其犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘留セラレシ日ヨリ刑期終ルノ日迄年金ヲ給セズ

四 犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘留ノ後免訴ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其拘留セラレシ日ヨリ放免ノ日迄年金ヲ給セズ又無罪ノ言渡ヲ受ケタルモノハ之ヲ給ス

第十四款 年金付與ノ期月ニ至リ前款一項二項ノモノニハ其拘留又ハ褫奪以前ニ係ル分ヲ付與シ又三項四項ノモノニハ其停止中ノ分ヲ扣除シ又ハ扣除セズシテ付與スヘシ若シ拘留

留及刑期年金付與ノ期日ニ跨ルハ次回ノ期月ニ於テ計算付與スヘシ

年餘扣除ノ計算方ハ一ケ年ニ滿タサルモノハ年額ヲ十二ケ月ニ折算シ又一ケ月ニ滿タサルモノハ一ケ月三十日ヲ以テ算スヘシ但シ月ト日トニ跨ルハ皆日數ニ換ヘ年額ヲ乘シ三百六十日ヲ以テ除算スヘシ

第十五款 勳等年金拜受ノ者勳章褫奪又ハ停止セラレタルハ賞勳局ハ之ヲ大藏省ニ通報シ大藏省ニ於テハ年金渡方ノ地方廳へ達スヘシ

第十六款 勳等年金拜受ノモノ失踪若クハ逃亡スルハ其他人ニ代理ヲ命スルト否トニ拘ハラス地方廳ニ於テ年金渡方ヲ停メ置キ他日復歸スルカ又ハ踪跡分明ナルハ榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アリシヤ否ヲ取調ヘ其所爲之レナキハ年金付與ノ期月ニ於テ全額ヲ下付スヘシ若シ其所爲之レアルト見ルハ明治十六年第三十九號達ニ依リ賞勳局總裁へ具狀スヘシ

但失踪逃亡ノハ又ハ踪跡分明若クハ復歸シタルハ(本文具狀ヲ除クノ外)速ニ地方廳ヨリ賞勳局及ヒ大藏省へ届出ツヘシ

明治十六年十月

大政官賞勳局  
大藏省

○明治十九年七月二十四日乙第九十五號 郡役所 戸長役場

明治十六年十月本縣乙第百二十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續左之通改正相成候ニ付テハ第一條第四項ニ觸ル、者アルトキハ戸長ニ於テ取調其情狀ヲ具申スヘシ此旨相達候事



(手續八十九年閣令  
第十九号ニ付略ス)

○明治二十二年十二月二十六日縣令第三百三十七號

賞勳年金拜受者ニシテ年金渡方手續概則第九款第二項第三項若クハ第十二款ニヨリ本廳へ  
差出ス願書ハ其地所轄ノ島廳戶長役場郡役所町村役場若クハ市役所ヲ經由スヘシ

●有位帶勳者

○明治十二年一月十四日甲第十四號

叙勳者履歷届出心得別紙ノ通其筋ヨリ達相成候條此旨布達候事

(別紙)

叙勳者履歷届出心得

第一條 新タニ勳等ニ叙セラレタル者ハ第二條雛形ニ照準シ履歷書相認メ用紙美紙二周間以  
内往復日數之ヲ賞勳局ニ届出ヘシ

但シ從前勳等ニ叙セラレタル者ハ此心得書承了ノ日ヨリ本文同様ノ日數内ニ届出ヘシ  
第二條 履歷書雛形

本貫族籍 元本貫  
元族籍

苗 字 名

年號月日某國郡町村ニ於テ生

年號月日

一任某官

或ハ某職被申付候事

但達書全文ヲ書載スヘシ

同上

一免本官

或ハ某職被差免候事

但同上

同上

一叙某位

但同上

同上

一内外御用出張

復命ノ時ヲモ書載スヘシ

但同上

同上

一賞典

但同上

同上

一責罰

但同上

第三條 勳等ニ叙セラレタル者ハ第二條履歷書ノ廉届濟ノ後左ノ事故有之節賞勳局ニ届出

ヘシ用紙美濃

但届出期限ハ第一條ノ例ニ同シ

一 現ニ官位アル者ハ轉免黜陟等有之節

但達全文ヲ書載シ届出ヘシ

一 非職ノ者新ニ任官叙位ノ命ヲ拜シタル節

但同上

一 内外御用出張ノ命ヲ受タル節及ヒ復命ノ節

但同上

一 賞典及責罰ヲ受タル節

但同上

一 外國旅行ハ公私用ヲ不論發航及歸朝ノ節

一本貫族籍等轉換ノ節

一 苗字名變改ノ節

一 住所轉換ノ節

但叙勳ノ節ノ現在所ハ第二條履歷書ト共ニ届出ヘシ

一 死亡ノ節

但遺族又ハ親族ヨリ其管轄廳ヲ經テ届出ヘシ

明治十一年十一月

太政官賞勳局

○明治十三年九月三十日乙第六十二號 郡 町村

非職有位並勳六等以上ノ輩一身上ニ係ル事柄ニ付郡役所若シクハ戸長役場へ喚起傳達等ヲ要スルコトアルルハ其執事ヲ可呼出若シ執事無之向ハ左ノ文體ニ倣ヒ書面ヲ以テ往復可致此旨相達候事

文例

今般何々之儀ニ付云々 縣廳裁判所ヨリ御達有之候條 又ハ手續書御差出可有之此段及御通達候也

年月日

某郡役所

位階 姓名 殿

封面記載方同上

今般何々之儀ニ付云云 縣廳裁判所ヨリ御達有之候間 又ハ手續書御差出相成度此段及御通知候也

年月日

某町役場

第一類 第一節 恩給叙勳

位階 姓名 職

封面記載方同上

三 令 達

● 公布式

○明治十九年七月二十七日縣令第一號  
縣令公布式及ヒ施行期限ヲ定ムル左ノ如シ

縣令公布式及ヒ施行期限

一 縣令ハ令書ヲ發シ島廳郡役所市役所及ヒ戶長役場町村役場ニ揭示スルヲ以テ公布式ト定ム(明治十九年十一月縣令第四十三號二十一年三月縣令第四十一號全年六月縣令第六十三號二十二年三月縣令第三十號ヲ以テ更正)

一 縣令ハ發令ノ日ヨリ七日ヲ以テ施行ノ期限トナス

但周吉穩地兩郡ハ令書島廳ニ海士知夫兩郡ハ戶長役場ニ到達ノ翌日ヨリ起算ス(明治二十一年六月縣令第六十三號ヲ以テ更正)

一 縣令ノ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ前項ノ例ニ依ラス

● 法律命令頒布部數

○明治廿二年三月廿八日訓令第五十九號 島廳 郡役所 戶長役場

明治十九年八月訓令第五號法律命令及諸令達頒布部數左ノ通更正シ來四月一日ヨリ施行ス

但松江市ニ於テハ市役所開設マテ舊戶長役場へ他町村役場ト同様頒布ス

一 法律命令公布ヲ要スルモノ閣省告示ハ

第一類 第二節 令達

- 郡役所 一部
- 市役所 一部
- 戸長役場(隠岐國) 一部
- 町村役場 一部
- 一縣令告示諭達ハ(明治二十二年九月訓令第百八十四號ヲ以更正)
  - 郡役所 三部内一部掲
  - 市役所 七部内五部掲
  - 戸長役場(隠岐國) 二部内一部掲
  - 町村役場 二部内一部掲
- 一郡役所及市役所限リノ訓令ハ
  - 郡役所 二部
  - 市役所 二部
- 一郡役所市役所及戸長役場町村役場ニ係ル訓令ハ
  - 郡役所 二部
  - 市役所 二部
  - 戸長役場(隠岐國) 一部
  - 町村役場 一部

沿革要領

明治六年二月二十三日以降管内達ニ番號ヲ附ス。○七年十二月第五百八十五號翌年ヨリ一般布達番號ニ甲一部限リノ達番號ニ乙ノ字ヲ冠シ及布達達中永ク遵守スヘキ分ニ輪廊ヲ附スル等ノ例ヲ定ム。○九年二月第四百十四號翌年ヨリ全上更定一國或ハ二國ニ冠スル布達達番號ニ丙ノ字ヲ冠スルノ例ヲ加フ。○十年八月甲第二百二十一號布達達日數並施行期限布達。○全年丙第九十一號隠岐國へ全上達。○全年十二月甲第三百七十號布達達中丙號ノ例ヲ改メ一國或ハ二國ニ關スルモノ、布達ハ丙達ハ丁ノ字ヲ冠シ且綱ヲ布達達ノ一隅ニ主務課係名ノ一兩字印出ノ旨布達。○十二年十二月乙第二百五十八號乙丁號達中郡役所ノミニ止ルモノハ翌年ヨリ郡ノ字ヲ冠スル旨達。○十五年五月乙第五十九號一時ノ告示ニ止ルモノ自今皆號ヲ以告示スヘキ旨達。○十六年十月甲第九十二號布達達日數並施行期限更定十年甲第二百二十一號全丙第九十一號達廢止。○十九年訓令第七十二號訓令ノ公報ニ登記スルモノハ別段ノ達ヲナサ、ル旨訓令

四 統計

● 本縣統計材料

○明治二十一年六月十九日訓令第九十九號 隱岐島廳 郡役所 戶長役場  
 明治十七年十一月乙第百七十六號本縣統計書材料樣式別冊ノ通更正候條年々取調戶長役場ニ  
 於テハ翌年二月限リ郡役所ニ差出郡役所ハ之ヲ精査シ其郡別ノ式アルモノハ一郡毎ニ統括  
 役所調査ニ係ルモノト一同製表同三月限リ進達スヘシ  
 但明治十七年十一月乙第百七十六號樣式外ニ係ル項目明治二十年ノ事實戶長役場ハ來ル  
 七月十日限リ郡役所ニ差出郡役所ハ同月三十一日限リ進達スヘシ

(別冊)

製表通則

- 一 用紙ハ半紙ヲ用ヒ一事件毎ニ紙頁ヲ改メ一紙ニ二事件以上ヲ列記スヘカラス
- 一 事實ニ異動ナキモノハ年々報告ヲ要セスト雖其項目ヲ別紙ニ添書スヘシ
- 一 何年トハ曆年何年度トハ會計年度ヲ云フ
- 一 會計年度調ニ係ルモノハ例ヘハ明治廿年中調<sup>曆年</sup>ノ事實ヲ掲グルルハ全十九年度<sup>自明治十</sup><sub>九年四月</sub>  
<sup>至全</sup>廿<sub>年三月</sub>ヲ載スルカ如シ
- 一 第四、第六、第十、第二十六、第二十九、第三十、第卅一、第卅三、第三十六、第三十七、第三十  
 八、第四十二、第四十三、第四十四、第四十六、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十

八、第六十、ノ廿一表ハ人口一万以上群居ノ地ヲ特ニ調査記入スヘシ

一 反別或ハ里程等實測ヲ經サルモノハ從來ノ口碑ヲ掲ケ其旨ヲ表尾ニ記入スヘシ

一 數位記入ノ例ハ表中特ニ端數ノ稱ヲ示セルモノ、外ハ四捨五入ノ法ヲ用ヒ一位ニ止ムヘシ

一 數位ノ句點一位ハ「。」(一位以下ノ小數ヲ記セ)千位及百方位ニハ「、」ヲ其右側下ニ施シ一位ノ右側ニ其數量ノ名稱ヲ記スヘシ

一 凡事實ノ變例<sup>事實ノ前年ト大ニ</sup>係ルモノハ表尾ニ其理由ヲ記入スヘシ

一 事實未詳ノモノアラハ其欄ニ「？」ヲ全ク登記スヘキ事實ナキモノハ其欄ニ「」ヲ記入スヘシ

(別冊)

第一 町村ノ反別

十二月三十一日現在

町	村	名	官	有	地	民	有	地	合	計
			町	反	畝		町	反		計
			畝	歩		畝	歩			
合	計									

本表ハ地籍表ヲ根據トシ調査スヘシニ村界又ハ郡界未定地アラハ何村ト何村ニ何反歩某郡ト某郡ニ何反歩未定地ト備考ヲ附スヘシ

第二 寒 暖

島	縣	所	在	地	名	平	均	最	高	最	低
郡	役	所				度	日	月	日	度	日

寒暖計ハ華氏ヲ用ユヘシ平均トハ一ケ年ノ平均ヲ云フ觀測ノ時刻ハ正午十二時トズ

(明廿一年十一月訓令第五百五十七號ヲ以更正)

第三 町村ノ戸口

十二月三十一日現在

町	村	名	現	住	者	合	計
			男	女			

戸數ハ現在ノ總數、人口(現住)ハ本籍ヨリ出寄留ヲ除キ入寄留ヲ加ヘタル數ヲ掲クヘシ但陸軍在營卒、逃亡失跡ハ出寄留ノ部ニ算スヘシ

第四 現住者ノ職業別

郡名(戶長役場名)	性	總數	農	業	商	業	工	業	官	吏	軍	人	教	員	醫	師	代	言	人	力	役	無	業
	女	男																					

現住者トハ第三表ニ全シ本表ニヨリ離キ種目アラハ其欄ヲ増設列記スヘシ

第一類 第二節 統計

第五 島嶼ノ戸口  
十二月三十一日現在

島名	戸數	男	女	合計

戸數ハ現在ノ總數、人口ハ本籍ノ内ヨリ出寄留ヲ除キ入寄留ヲ加ヘタル數ヲ掲クヘシ  
但陸軍在營卒、逃亡失踪ハ出寄留ノ部ニ算入スヘシ

第六 寄留者ノ人員  
十二月三十一日現在

郡名(戸長役場名)	男	女	合計	男	女	合計
	出					

一郡内ノ出入寄留者ハ調査ニ及ハス

第七 農家

郡名(戸長役場名)	總戸數	總耕作地
	專業兼業	町反畝歩

第八 農業者  
十二月三十一日現在

郡名(戸長役場名)	總數	專業兼業者	自作及小作人
	男	女	町反畝歩

郡名(戸長役場名)	第九 耕地ノ作付及不作付段別			
	作付	不作付	田	畑
	總數	總數	町反畝	町反畝
	町反畝	町反畝	町反畝	町反畝

第十 桑園

郡名(戸長役場名)	第十 桑園			
	總數	刈桑	立木	反別
	株數	株數	株數	町反畝
	町反畝	町反畝	町反畝	町反畝

郡名(戸長役場名)	第十一 養蠶			
	季節	養蠶家	蠶ノ數	養蠶人員
				總數
				男
				女

養蠶家トハ組合ニ加入シタル戸數養蠶人員トハ養蠶家ニ於テ其業ニ従事スルモノヲ調査スヘシ

第十二 製茶

郡名(戸長役場名)	製茶家ノ數



第十三 農事會

郡名(戶長役場名)	開會度數	開會日數	會員

會員ハ出席人ノ延人員ヲ記スヘシ

第十四 屠斃ノ牛馬

郡名(戶長役場名)	牛馬	屠	殺	斃	死
	牝	牡	合計	牝	牡
馬牛					

屠斃ハ食用ニ供スルト否トヲ開ハス一周年間ノ總數ヲ掲クヘシ

第十五 牛馬市場ノ賣買頭數及金高

市場名	頭數	金高
	牛	馬

市場ニアラスシテ賣買セシモノアラハ本表ニ準シ其表ヲ增加スヘシ十六十七兩表モ亦全シ

第十六 牛ノ相場

市場名及產地	年	牝	牡
某市場	三歲未滿	圓	圓
某國種	三歲以上	圓	圓
	五歲以上		

戶長役場ニ在テハ一周年間賣買セシ金高ヲ加算シ其頭數ヲ以除シタルモノヲ掲ケ島廳郡役所ニ在テハ戶長役場ヨリ出シタルモノヲ加算シ而シテ其關係アル戶長役場ノ數ヲ以除シタルモノヲ掲クヘシ

第十七 馬ノ相場	市場名及產地	某市場 某國種	年 齡	壯
	當 年 以上	三 歲 以上	牝 馬 四 匹	牝 馬 四 匹

牛ノ相場ト題スル表ニ全シ

第十八 牧 場

十二月三十一日現在

場 名	所屬地名	飼養 種類	創設年月日	資 本	金 牧場	段 別	役 夫
某場(官) 某場(私)					四	町	反 畝

飼養家畜ノ種類トハ例ヘハ牛ナレハ某國某種ノ牛ト記スヘシ

第十九

牧畜ノ増減

場名及種類 某場ノ牧牛 某場ノ牧馬	總數	年未ノ現在	增	減
	總數 內飼養他 付附	總數	買入 生産 其他	斃死 賣却 其他

第二十

瘦牛馬

郡名 (戶長役場名)	總數	斃死 撲殺	牛			總數	斃死 撲殺	馬		
			當 年	二 歲 以上	總 數			當 年	二 歲 以上	

撲殺ハ傳染豫防ノ爲メ撲殺セシ頭數ヲ記入スヘシ

第一類 第二節 統計

第二十一 屠殺ノ牛

屠場名	頭數	貫目
		十六貫匁ノ平均相場

相場ハ屠場ヨリ小賣商ヘ資渡シテモノ即筋骨ヲ去ラサルモノ、價格ヲ記入スヘシ

第二十二

民林ノ段別及山番人

十二月三十一日現在

郡名(戶長役場名)	總段別	森				草地		草山ノ山番人ノ數
		總數	山	平地	町反畝歩	町反畝歩	町反畝歩	
	町反畝歩	町反畝歩	町反畝歩	町反畝歩	町反畝歩	町反畝歩	町反畝歩	

本表ハ地籍表ノ反別ヲ根據トシ調査スヘシ草山トハ喬木ナキ山ヲ云フ故ニ柴草山又ハ芻秣山等ノ名稱ニ別多キニ隨テ區分スヘシ

第二十三

民林所有者ノ數及所有ニ仍テ分チタル段別

十二月卅一日現在

郡名(戶長役場名)	所有者ノ數	所有ニ仍テ分チタル段別			
		單有	共有	總數	町反畝歩

爭論地ニシテ單有共有ノ區別立難キモノハ其段別備考ニ附記スヘシ

第二十四

民林ノ伐木及損害

郡名(戶長役場名)	總伐數	探		損		害	
		薪炭材	總數	伐燒	木枯	損風	折其他

第二十五		漁戸及漁人		十二月三十一日現在	
漁	浦戸數	總數		兼業	
		男	女	男	女
合計					

第二十六		製造及製造品		郡名(戸長役場名)	
種	類	製作及製造高		製作及製造人員	
		蠟	參糸	綿器	
陶木紙生瓦					

陶器、瓦、筒、木綿、紙、束、東、二、百、枚、人、參、一、斤、八、百、生、蠶、一、貫、匁、ヲ、以、テ、算、ス、ヘ、シ

第二十七		工場		資本金ハ十二月三十一日現在	
種類及場名	地名	職工延人員		資本金	
		男	女	圓	圓
何々	某工場	總數		經費金	
		男	女	圓	圓
				收入金	
				圓	圓

種類ハ陶器、瓦、木綿、紙、人參、生蠶、生糸ニ區別シ其原法ハ製造及製造品ト題スル表ニ全シ場所ノ名稱ナキモノハ持主ノ姓名ヲ掲ケヘシ器機械運轉力ノ種類蒸氣力、人力、獸力等ヲ云フ但職工五人以上使用スル工場ヲ調査スヘシ

第二十八		工場ノ製品及代價	
種類及場名	製出高代	價	
		圓	圓
何々		某工場	

本表ハ上表ニ掲ケタル工場ノ製品及代價ヲ記入スヘシ又製出中數個ヲ合シテ一組ト爲スモノハ一組ヲ以テ一箇ト算スヘシ九一箇ハ若干數ナル旨表尾ニ附記スヘシ



第三十三

橋梁ノ新架々換及修繕費

何年度

郡名(戸長役場名)	新架及架換		修繕	
	總數	町地方税 町村費	總數	町地方税 町村費

第三十四

堤防ノ築造及修繕

何年度

川名	總數	町地方税	町村費	寄附金	延長

本表ハ地方税ト町村費連帯ニ係ルモノ及町村費寄附金ヲ以築造又ハ修繕セシモノヲ掲クヘシ

第三十五

堤防ノ築造及修繕費

何年度

川名	總數	町地方税	町村費	寄附金

第三十六

溜池及水路

十一月三十一日現在

郡名(戸長役場名)	溜池		堰		溝		渠		水放	
	個	町反畝	個	町反畝	個	町反畝	個	町反畝	個	町反畝

本表ハ地方税ト町村費連帯及町村費ヲ以テ其修繕ヲ負擔スルモノ、數ヲ掲クヘシ  
又溜池及堰ハ地上ニ表ハル、ト地中ニ在トニ拘ハラズ記入スヘシ次表モ亦全シ

第三十七 修繕ノ溜池及水路

郡名 (戸長役場名)	用	溜池	所積個	延長間尺	溝渠	所延長間尺	放水	溝渠	所延長間尺	放水	溝渠	所延長間尺	何年度

本表ハ地方税、地方税卜町村費連帶及町村費ニ係ル修繕ヲ記入スヘシ

第三十八 溜池及水路修繕費

郡名 (戸長役場名)	用	溜池	堰塊	溝渠	開及樋	溝渠	開及樋	放水	溝渠	開及樋	放水	溝渠	何年度

本表ハ地方税、地方税卜町村費連帶及町村費ヲ以修繕セシ費金ヲ記入スヘシ

第三十九 農工商業會社

種類	社名	所在地名	開業年月	支店數	資本金

十二月三十一日現在

本表ハ資本ノ多寡ニ拘ハラズ會社ノ名稱アルモノハ派テ記入スヘシ

第四十 市場ノ問屋及仲買

種類	地名	問屋	仲買
		頭取人員	頭取人員
		問屋戸數	仲買人員

十二月三十一日現在

第四十一

市場ノ賣買金高

地名	問	屋	仲	買	合	計
		圓		圓		圓

市場ニ於テ一年間賣買セシ所ノ商ヒ高ヲ記入スヘシ

第四十二

質屋ノ貸金

郡名(戶長役場名)	店數	年末現在一年間ノ貸出金高口數	貸出金高口數	受戻金高口數	流シ金高口數

第四十三

質屋ノ金利歩合

郡名(戶長役場名)	十圓ニ對スル最高最低	一圓ニ對スル最高最低
	圓 圓	圓 圓

戶長役場郡内ニ於テ一年中ノ最高最低ノ分ヲ掲ケ而シテ郡役所ニ於テハ戶長役場ヨリ差出タル内ノ最高最低ヲ掲ケヘシ

第四十四

地所ノ賣買

郡名	反			別			地			價			人			
	總數	畑	宅地	其他	總數	畑	宅地	其他	總數	畑	宅地	其他	總數	畑	宅地	其他

反別ハ反、地價ハ圓ニ止ムヘシ而シテ木表ハ地券書習ヲ請求シタルモノニ仍テ調査スヘシ



第四十五 郡村職人及雇人ノ賃錢

郡名(戶長役場名)	何々		何々		何々		何々		何々		何々	
	男(日)	女(日)	月(年)	日(日)	月(日)	日(日)	日(日)	日(日)	日(日)	日(日)	日(日)	
	錢厘	錢厘	圓厘	圓厘	錢厘	圓厘	錢厘	圓厘	錢厘	圓厘	錢厘	圓厘

諸職人及雇人中其關係ノ村落ニ多キ者ヲ掲クヘシ其記載方ハ日給ノモノ(日)月給ノモノ(月)日給ノモノ(日)月給ノモノ(月)ト記スヘシ  
本表ニ準シ市街ニ係ル事實ヲ別記スヘシ

第四十六 通運會社

社及取次所ハ十二月三十一日現在

郡名(戶長役場名)	本分社及取次所ノ數		個發		荷着		荷着	
	次所ノ數	個發	數	貫目	數	貫目	數	貫目

人馬繼立所ニ於テ取扱セシ數ハ本表ニ準シ別記スヘシ

第四十七

船舶ノ所有者及船數

十二月三十一日現在

管外某國	郡名(戶長役場名)	所有者	總數		西洋形		日本形	
			數	船	蒸氣	帆	日	本

本表ハ船舶所有者本籍ノ郡ニ從テ(他管ノ者ハ國別)區別スヘシ

第四十八

町村ノ貯蓄

十二月三十一日現在

郡名(戶長役場名)	組數	町村數	人口	貯蓄		貯蓄物	
				何々	何々	何々	何々

本表ハ共有金若クハ貯蓄セル物品ヲ掲ク可シ貯蓄物ハ其貯蓄セル種類ニ仍テ員數ヲ記入スヘシ

第四十九

慈惠ノ義捐金及義捐人員

郡名(戸長役場名)	義捐金			義捐人員		
	總數 圓	何々ノ爲 圓	何々ノ爲 圓	總數 圓	何々ノ爲 圓	何々ノ爲 圓

本表ハ賞與ラ受ケタルモノト否トヲ問ハス一周年間義捐金ヲ記入スヘシ其物品ヲ義捐セシモノハ代價ヲ積算記入スヘシ

第五十

義捐金ニテ救濟セラレシ人員及金員

郡名(戸長役場名)	人員		金員	
	總數 圓	何々ノ爲 圓	總數 圓	何々ノ爲 圓

第五十一

公立小學教授者ノ年齢及勤務年限

十二月三十一日現在

郡名(戸長役場名)	年齢			合計	未滿 三 年 以 上 以 下	勤 務 年 限	合計
	三十 年 以 下	四十 年 以 下	五十 年 以 下 六 十 年 以 上				

本表ハ訓導ト授業生トヲ問ハス教授ヲ掌ルモノヲ調査スヘシ

第五十二

小學ノ中途退學生徒

郡名(戸長役場名)	公立				私立			
	總數	簡易	尋常	高等	總數	簡易	尋常	高等

第一類 第二節 統計

第五十三 私立ノ諸學校

十二月三十一日現在

校名	所在地名	學科	開校年月	創立費 圓厘	總數		生徒室 其他
					坪	坪	

第五十四 私立諸學校ノ教授者生徒

校名	教授者	生徒	卒業生徒	中途退學生徒

第五十五 私立諸學校費ノ收入支出

校名	年次	收入		支出	
		圓厘	圓厘	圓厘	圓厘

第五十六 縣會議員ノ投票

郡名	撰學權ヲ有スル者	投票ノ數

本表ノ撰學權ヲ有スルモノハ其議員ヲ撰學スルニ當リ調査スル員數ヲ記入スヘシ

第五十七

町村會開未開ノ町村及議員

十二月三十一日現在

郡名(戸長役場名)	町		村		議員	被擧權ヲ有スル者	擧權ヲ有スル者
	總數	開	未開	會數			

第五十八

地租納人員

何年度

郡名(戸長役場名)	地租納人員	何年度

本表ハ其年度ニ於テ地租納人員ヲ記入スヘシ又甲乙兩村ニ地所ヲ所有シ稅ヲ其兩村戸長役場ヘ納ムル者ハ一人ト算スヘシト雖モ之ヲ關理スル爲メニ夥多ノ手數ヲ要スル時ハ二人トシテ記入スヘシ

第五十九

郡町村吏ノ俸金

何年度

郡名(戸長役場名)	郡書記	郡	雇戸長	用係筆生	何年度

本表ハ一年度間實際支給セシ額ヲ記入スヘシ

第六十

藥舖及賣藥

十二月三十一日現在

郡名(戸長役場名)	藥舖		藥種商	賣藥		何年度
	總數	內務省免許地方		製造	受賣行商	

● 郡役所統計表式

○明治十七年十一月十五日郡乙第百六十二號 郡役所  
郡役所統計表式別紙之通相定候條右表式ニ照準年々取調翌年三月限り可差出此旨相達候事  
但十七年分ヨリ製表候義ト可相心得事

製表通則

- 一此表式ハ其大概ヲ示ス者ナレハ各欄掲グル事項ノ外ニ起ル事實(例ヘハ人口異動中増ノ部ニ無籍者ノ新ニ籍ニ就キ又減ノ部失踪者ノ八十歳ニ滿ルヲ以テ其籍ヲ除ク等ノ類)及他ニ緊要ノ事項ヲ調査セシ者アラハ適宜其欄ヲ増加スヘシ
- 一郡管轄ノ郡役所ハ全管ヲ其郡名ニ替ヘ以下某郡ノ欄ヲ削除スヘシ又三四郡管轄ノ郡役所ハ其欄ヲ増加スヘシ
- 一會計年度ニ係ル事實ハ曆年調ノ事實ヨリ半年前ノ事實ヲ掲グル者トス(例ヘハ明治十七年中曆年ノ事實ヲ掲グルルハ全十六年度會計年ノ事實ヲ載スルカ如シ)
- 一數位記入ノ例ハ表式中特ニ端數ヲ示セル者ノ外ハ四捨五入ノ法ヲ用キ一位ニ止メ其右側ニ數量ノ名稱ヲ記シ千位及百方位ニ「」ヲ其右側ニ施スヘシ
- 一表中調査未了ノ事實アラハ其欄ヘ「？」ヲ全ク登記スヘキ事實ナキ者ハ其欄ヘ「」ヲ記入スヘシ

製表解釋

位置

經度ハ東京皇城舊本九天守臺ヲ基礎トシテ起ル者ヲ用フヘシ其基礎ノ地名ハ表尾ニ記スヘシ

距離

但暫ク東京赤坂葵町舊氣象臺ヨリ起ル者ヲ用フルモ妨ナシ

地勢

里程ハ郡役所ヨリ起算スヘシ

土地

境界ノ他縣又ハ他國ニ接スル者ハ其縣國名ヲ冠スルヲ要ス

戶口

耕地ハ熟田畑ヲ云不耕地ハ未タ熟田畑ニ至ラサル土地及宅地山林原野秣場池沼湖等ヲ云

農業

戶數人口ハ本年中所動ヲ除ク外ハ一月一日ノ現在數ヲ掲グヘシ

漁業

產物ハ穀類ノミナラス綿、麻、藍、甘藷等總テ收穫多量ノ者ヲ記入スヘシ

工業

產物ハ其採捕スル魚類海藻等ノ重ナル者ヲ記入スヘシ

貨幣融通  
製作品代金ハ摺附木、靴、綿布等其種類ヲ分テ記入スヘシ

土 功  
公債證書所有ノ會社銀行等ニ係ル者ハ一社一行ヲ一人ト見做シテ合記スヘシ

道路橋梁溜池ハ坪數堤防堰埭溝渠ハ延長開及樋ハ個所ノ數ヲ掲クヘシ又費額ハ官費私費  
寄附金ニ係ル者アラハ其欄ヲ增加シ區分ヲナスヘシ

交 通

通運會社ハ本分社及取扱所ノ數ヲ合記スヘシ

受 賞

金員ヲ賜フ者アルハ別ニ一欄ヲ設ケ其金高ヲ併記スヘシ

教 育

教授者ハ訓導準訓導授業生及助手ヲ合記スヘシ

市 邑

戸數五百戸以上連檐シ一市街ヲナスモノヲ記入スヘシ

(明治二十年三月訓令第七十五號ヲ以テ地所建物ノ賣買並地所建物ノ書質入ノ二欄削除)



國					業		業								口																地					土			
何々	賣藥稅	煙草稅	酒造稅	地稅	總數	物產	漁業人員	畜家				農用船	農業人員	口								現住	現明	平均	一段	不耕	民有地		官有地		區			廣袤	周圍	面積			
								馬	牛	何	麥			米	海	兵	動	所	中	年	本						留	寄	籍	本	住	不耕	不耕				浦	村	町
何々	營業稅	戶數割	地租割	總數	收入	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
地方					賞受		捐義		恤救		貯蓄		通交		功土		融貨幣			業商			業工		業鑛														
何々					褒飾		何々		米		貯蓄		通交		功土		融貨幣			業商			業工		業鑛														
何々					褒飾		何々		米		貯蓄		通交		功土		融貨幣			業商			業工		業鑛														
何々					褒飾		何々		米		貯蓄		通交		功土		融貨幣			業商			業工		業鑛														

支 出 官 吏



役所統計表

地 某郡某町 某村	度 月日	度 月日	度 月日	計 氏(羅氏又ハ(華氏)施氏)	縣廳	所管鎮臺	同裁判所	同警察署	電信局	鄰郡	所役郡隣	離距	
												離	距
郡名	勢地												
	東某縣某國某郡	北	南	西	東	界							
著大山嶽全原野全河川全湖沼全島												嶽山某野原某川全湖沼全島	

出 人 員 俸 給 收 受	種 目 全 管 某 郡 某 郡 種 目 全 管 某 郡 某 郡	業 工 業 鑛 工 人 數 製 作 (造 品 代 金) 女 男	製 作 場 數 製 作 場 員	酒 類 釀 造 石 人 員 數	商 買 賣 買 賣 買 賣 買 賣	會 社 數 日 用 品 精 米 (石)	貨 幣 融 通 所 有 人 員 額 面 金 高	土 功 新 起 橋 道 何 橋 道 何 橋 道 何 橋 道	交 費 額 地 方 稅 費 協 議 費	車 何 人 力 車 數	船 西 洋 形 風 帆 數	數 日 本 形 全 未 滿 五 十 石 以 上	通 便 郵 局 數 切 手 賣 下 所 數	貯 蓄 貯 蓄 物 米 金	救 恤 米 代 官 地 方 稅 費 兒 女 病 疾	義 捐 何 々 費 金 人 員	賞 受 何 々 費 金 人 員																																																		
																		醫 師 試 驗 何 卒 業 數	病 院 數 (公 私)	懼 病 傳 染 病 數	痘 種 初 種 不 善 感 感 以上 再 種 不 善 感 感	病 死 者 數 女 男	衛 生 委 員 請 營 業 員 數	社 官 國 幣 社 給 員 數	寺 官 國 幣 社 給 員 數	學 齡 學 校 數 不 就 學 數 女 男	小 學 校 數 教 授 者 數 私 公	諸 學 校 數 教 授 者 數 私 公	校 生 徒 數 私 公	學 費 支 收 入 出 入	學 務 委 員 給 員 數	會 議 員 現 定 員 數	被 撰 舉 權 有 ス ル 者 數	撰 舉 權 有 ス ル 者 數	何 々 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員																									
																																											醫 生 數	病 院 數 (公 私)	懼 病 傳 染 病 數	痘 種 初 種 不 善 感 感	病 死 者 數 女 男	衛 生 委 員 請 營 業 員 數	社 官 國 幣 社 給 員 數	寺 官 國 幣 社 給 員 數	學 齡 學 校 數 不 就 學 數 女 男	小 學 校 數 教 授 者 數 私 公	諸 學 校 數 教 授 者 數 私 公	校 生 徒 數 私 公	學 費 支 收 入 出 入	學 務 委 員 給 員 數	會 議 員 現 定 員 數	被 撰 舉 權 有 ス ル 者 數	撰 舉 權 有 ス ル 者 數	何 々 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員	協 議 費 金 人 員

出 人 員 俸 給 收 受 (三郡以上) 某市街 某街 某道



○明治廿一年六月十八日訓令第九十六號 隱岐島廳 郡役所  
 明治十七年十一月郡乙第百六十二號達郡役所統計表ハ自今進達ニ及ハス

●公賣處分調書式

○明治二十二年十二月二十日訓令第二百二十七號 島廳 郡役所 收稅部出張所 市役所  
 地租及土地ニ係ル地方稅市町村費公賣處分調明治二十一年度分ヨリ取調毎年二月限り進達  
 スヘシ

但郡役所又ハ市役所ト收稅部出張所トニ連係スル調査ハ協議ヲ遂ケ取纏メ製表スヘシ

明治何年度地租及土地ニ係ル地方稅市町村費不納者公賣處分調

不納金額	地		合計
	租	土地ニ係ル 市町村費	
七五〇、〇〇〇			
公賣代價			
一、一四五、〇〇〇			
納濟金額			
六四四、二〇〇			
過剰下戻金額			
四八〇、〇〇〇			
内 公賣入費			
二〇、八〇〇			
合計	一、一四五、〇〇〇		

第一類 第一節 統計

不納金ト納済金ト差引不足  
金額  
公賣ノ際買受人ナキ地所ニ  
對スル不納金額

四五、八〇〇  
六〇、〇〇〇

一表中公賣代價ト其内譯合計ト符合シ又納済金額及不納金納済金差引不足金ト公賣ノ際買受人ナキ地所ニ對スル不納金額ト符合シテ前項不納金額ト必ス符合スヘキモノトス  
一備荒儲蓄金ノ不納ハ地方税ニ合記スヘシ以下之ニ準ス  
一右表中ニ掲クル員數ハ其一例ヲ示スモノナリ

其二

土地種類	公賣シタル		官沒シタル		郡市戸町村長ノ管掌シタル		合計
	反別	地價	公賣代價	反別	地價	反別	
耕地宅地	町反畝歩	圓錢厘	圓錢厘				
山林原野雜種							
合計							

一人ニシテ地租及地方税町村費ヲ不納シ爲メニ公賣ニ付シタル反別ノ如キハ其合反別ヲ記入シ必ス重複ナカラシムルヲ要ス  
一官沒及郡市戸町村長ノ管掌シタル反別地價トモ該年度中ノモノ、ミテ掲載スヘシ

其三

不納人員	地租及土地ニ係ル地方税又ハ市町村費ヲ納メサル		地租ノミ納メサル		土地ニ係ル地方税又ハ市町村費ヲ納メサル		合計	不納人員不納ノ理由 貧困怠慢其他ノ事故
	費ヲ納メサル	メサル	メサル	メサル				

一人ニシテ地租及地方税等ヲ納メサルモノ、如キハ二人トセスシテ一人ト算スヘシ  
一土地ニ係ル地方税市町村費共地租ト連帶スルモノハ總テ第一欄ニ記入スヘシ

市町村ニ關スル調書式

○明治二十二年十二月二十五日訓令第二百三十號 島廳 郡役所 市役所  
別紙様式ニヨリ明治二十二年分ヨリ取調毎年二月限り進達スヘシ  
但第二及第三中郡吏ニ限り一月十日限り進達スヘシ  
(別紙)

△本様式ハ各表連續スト雖庄材料進達ノ節ハ各表別紙ニシテ差出スヘシ  
第一 市役所及區役場ノ數 明治何年十二月三十一日調

何郡	郡名	區	役場

第一類 第二節 統計

何市(何區役所)

何市役所

一表中區役所ハ市制第六十條區役場ハ町村制第六十四條ニ該當スル吏員ノ事務所ヲ云フ  
第二 島廳雇人員月俸  
明治何年十二月三十一日調

十圓以上	十圓未満	合	計
圓	圓	圓	圓

一事務ヲ執ル常雇ヲ調ヘ其日給ニ係ルモノハ月俸額ニ算シ四捨五入シ圓位ニ止ムヘシ  
但一ヶ月ハ三十日ヲ以算ス

第三 郡吏及市町村吏人員月俸階級別 明治何年十二月三十一日調

階級別	人員	支給金額	
		月俸	報酬金合
郡吏 長	六圓以上		
市 長	五圓以上		
助 長	五圓以上		
助 員	五圓以上		
助 員	五圓以上		
助 員	五圓以上		
市會書記	廿五圓以上		
收入役	廿五圓以上		
市會書記	廿五圓以上		
合計			

第一類 第二節 統計

町 村 吏 員		員	
町 村 長	名譽職 拾圓以上	市 會 雇	六圓以上
助 長	拾圓以上	區 長 及 代 理	名譽職
助 員	拾圓以上	常 設 委 員	名譽職
常 設 委 員	拾圓以上	收 入 役	六圓以上
收 入 役	六圓以上	町 村 書 記	六圓以上
町 村 書 記	六圓以上	町 村 雇	六圓以上
町 村 雇	六圓以上	區 長 及 代 理	名譽職
區 長 及 代 理	名譽職	戶 長 役 場 雇	六圓以上
戶 長 役 場 雇	六圓以上	合 計	

一人員ハ其年十二月三十一日ノ現員ニヨル  
一年俸及日給ノ者ハ月俸額ニ改算シ各合計ニ於テ四捨五入シ圓位ニ止メ記載スヘシ報酬金

モ之ニ準シ人員金額トモ積算シテ記入スヘシ  
 一年俸及報酬金ノ年額ヲ以テ定ムルモノハ十二分ノ一、日給ハ三十日分ヲ以テ計算シ月額トナシテ記入スヘシ但報酬ニ屬スル實費ノ支辨ハ之ヲ除ク  
 一兼務ハ人員金額トモ朱書ヲ以別項ニ掲載スヘシ但給料或ハ報酬ヲ受ケサルモノハ掲載スルニ及ハス  
 一委員ハ常設(臨時委員ハ省ク)ノ委員ニシテ市、町、村會議員及市町村公民中ヨリ撰舉セラレシモノ、シテ掲クヘシ但參事會員等ヨリ兼ヌルモノハ重複スルヲ以掲載スヘカラス  
 一表中掲クル市會雇、町村雇ノ欄ニハ市制町村制ニ附屬員トアルモノ、内定雇ニシテ事務ヲ執ル者ヲ掲クヘシ

第四 市町村吏員族籍別

明治何年十二月三十一日

種別	華族	士族	平民	合計	市 吏									
					市長	助役	參事會員	収入役	書記	區長及代理				

一本表ニハ兼務ノ者ハ合記スルヲ要セス

種別	合計	
	町村吏	町村長

第五 市町村吏員退隱料受領人員及金額

明治何年十二月三十一日調

種別	人員		金額
	市吏員	町村吏員	

一本表ニ掲ケタル人員ハ十二月三十一日ノ現員ヲ掲ケ金額ハ其現在ニ支給スヘキ年額ヲ掲載スヘシ假令ハ市長ニシテ退隱料年額三十圓ヲ受クルモノ二人アレハ人員二人支給金額六十圓ト掲載スルカ如シ

第一類 第二節 統計

一市制及町村制第七十九條ニ依リ官職其他ノ職務ニ就キ給料ヲ受クル者ト雖トモ本表ニハ之ヲ合算シ除クヘカラス

第六 市町村會

明治何年十二月三十一日調

種別	會數	員		撰舉權ヲ有スル者
		華族	士族	
市會				
町會				
村會				
町村組合會				
町村總會				
總計				

- 一町村組合會ハ町村制第一百六條ニ依テ設置スルモノナ云フ
- 一町村總會ハ町村制第三十一條ニ依テ設置スルモノナ云フ其議員數ハ掲載スルニ及ハス
- 一會數ハ開會ノ度數ニアラス設置ノ數ナリ
- 一議員ハ撰舉權ヲ有スル者ノ内ニ包含スルモノトス
- 一町村聯合會區會ハ設置ノ會數議員等調査スルニ及ハス
- 一舊制ノ區町村會法ニヨリ開設スル町村會國ハ本表ニ準シ別表ニナスヘシ

五 雜

- 明治七年二月三十一日第五十一號  
每年十一月三日天長節ノ砌  
聖上御眞影四民一般於縣廳内拜見差許候條此段爲心得相達候事  
右之通管内無漏相達スルモノ也
- 明治七年六月廿二日第三百十六號  
士族ノ鞆袴ニテ出廳ノ者モ間々有之候處自今出廳ノ節ハ必着袴可致候事  
右之通貫屬士族中へ無洩相達スル者也
- 明治十年十二月廿八日乙第百五十九號 各區々戶長  
來十一年一月ヨリ禮服用喚起之節ニ限り黒或ハ紺色ノ上服(英語フロックコート)若シクハ羽織袴換用不苦候條此旨相達候事
- 明治十一年一月三十一日乙第十四號 各區々戶長  
三大節拜賀ノ節間ニハ上下着用候向モ有之候處在職ノモノハ明治六年十月限リ直垂上下ヲ以テ換用不相成儀ニ付自今右様之儀無之様可相心得且黒或ハ紺色ノ上服若クハ羽織袴換用候ハ通常禮服用日ニ限り候儀ニテ三大節ノ如キ大禮服用日ニハ換用不相成候條取混無之様可致注意此旨相達候事
- 明治十一年二月七日甲第三十三號

自今非職無位ノ輩ハ羽織袴ヲ以禮服ニ換用不苦候條此旨爲心得布達候事

○明治十二年二月二十八日乙第二十九號 郡役所

郡役所ヨリ進達スル公書ニ添タル入記ニハ受附係ニ於テ領收ヲ證シ下戻來リ候處來ル二月十日ヨリ該入記ハ受附係ニ領置別ニ領收ノ證交付セシメ候條爾後入記ニハ番號等明瞭記載可差出此旨相達候事

但受附係ヨリ下附ノ入記モ本文ニ準シ其役所ニ留置別ニ領收ノ證ヲ差出スモ苦シカラス

○明治十七年八月廿二日乙第百三十號 郡町村

土地人口及ヒ農業統計材料取調方之儀ニ付時宜ニ因リ統計院幹事ヨリ直チニ町村戸長工事實諮詢可相成筈ニ候條便宜申報致シ尙其事柄本廳ヘモ開申可致此旨相達候事

○明治十九年十二月廿四日訓令第九十七號 郡役所 戸長役場

新年紀元節天長節參賀ノ儀左ノ通改正明治十二年二月乙第十三號達同十六年五月郡乙第四十七號達全乙第六十九號達ハ廢止ス

但小學校長訓導及ヒ有位帶勵者ヘハ郡役所ヨリ通達スヘシ

一判任官准判任及ヒ非役正七位以下同勳七等以下ノ者ハ當日午前第八時禮服着用本廳ヘ參賀スヘシ其遠隔ノ地ニ在リテ參賀シ難キ者ハ書式ノ通賀表ヲ認メ差出スヘシ

一遠地在勤郡書記ノ賀表ハ其所屬郡役所ヘ出頭シ(時限其他參賀ニ準ス)連名ヲ以テ差出スヘシ

スヘシ

一正七位以下勳七等以下ニシテ等外吏或ハ雇タル者ハ第一項非役ニ准ス  
一當日病氣又ハ忌服等ノ事故アル者ハ其旨ヲ届出ヘシ

准判任以上賀表書式 (料紙豎五寸横二寸)

謹奉賀	新年	紀元節	天長節	官(位勳)苗字名
-----	----	-----	-----	----------

非役位勳者賀表式 (料紙全上)

謹奉賀	新年	紀元節	天長節	位(勳)苗字名
-----	----	-----	-----	---------

連名賀表書式 (料紙美濃又ハ薄葉)



謹奉賀	
新年	
紀元節	
天長節	
年月日	官位勳苗字名
	官苗字名

第三節

一 勸業諸會 勸業委員

●博覽會共進會

○明治十九年五月二十六日甲第七十四號

各地方ニ於テ博覽會共進會其他之ニ類似ノ會(褒賞ヲ付與スルモノ)ヲ開設セントスルハ其趣會主ヨリ規則書相添開會前三十日迄ニ届出且閉會後五日限り其景況ヲ左式ニ準シ報告スヘシ(明治二十一年十一月縣令第百二號ヲ以更正)

但明治十六年九月本縣甲第八拾三號布達ハ廢止ス

明治何年私立何會報告書

會場地名

國郡町名

會名

何博覽會何共進會ト記スヘシ(譬ハハ水産博覽會何共進會ト云フカ如シ)其名ナキモノハ單ニ博覽會共進會物産會展覽會品評會ト記スヘシ

會主

何某或ハ何會社或ハ何郡長何町村戶長

開場

何月何日

褒賞授與式

何月何日

閉場

何月何日

出品區域

何郡町村聯合

出品人員	何人
出品員數	若干
出品總價	何圓錢
出品種類	農畜水産或ハ陶器漆器織物等成シヘク詳細ニ記スヘシ且農畜水産ハ其物品ヲ詳細ニ記スヘシ
出品賣數	若干
出品賣價總額	何圓錢
褒賞總人員	何人
褒賞等級別	一 等何人 二 等何人 三 等何人 褒狀何人 追賞何人 功勞賞何人
褒賞々與物件	杯或ハ何物品或ハ金銀(等ヘハ) 等何物品或ハ金何圓(等何々) 等成ルヘク詳細ニ記シ追賞及ヒ功勞賞ハ別紙ヲ以テ其賞狀等ヲ添フヘシ
來觀人員	何人
通券價格	何錢(日曜日平日等ノ區別アルハ各別ニ記スヘシ)
通券枚額	何圓錢
會費總額	何圓錢
會費區別	町村費何圓 通券料何圓 或ハ釀金義捐金等成ルヘク詳細ニ記スヘシ
本會景况	云々

(譬ヘハ特殊發見ノ礦物或ハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ或ハ陶漆器織物其他製作品ノ著ルク改良進歩セシモノ或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セシモノ或ハ輸

入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農畜物水産物ニ關シ會場及ヒ集談講話會等ヲ開クハ其景况ハ勿論後來ニ希圖スル意見及ヒ一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開設ノモノハ前年ノ比較ヲ揭ケ其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ)

勸業諮問會

○明治二十年三月四日告示第五十五號

明治十七年(二月)甲告第十八號告示勸業諮問會規則左ノ通更正ス

勸業諮問會規則

- 第一條 本會ハ勸業事務ニ付知事ノ諮問ニ參シ農商務大臣又ハ主務ノ官省ヨリ諮問アルトキ之ニ答フルモノトス
- 第二條 會員ハ三十二名トシ知事之ヲ命ス其任期ハ滿二年トス
- 第三條 會長ハ知事親ヲ之ヲ勸メ會場ヲ整理シ會員ヲ提携ス但知事事故アルトキハ書記官又ハ其指名セル官吏之ヲ代理ス
- 第四條 本會ハ通常會臨時會ノ二種ニ分ツ通常會ハ毎年一回之ヲ開ク日數十日以內臨時會ハ臨時ニ之ヲ開ク日數五日以內トス其開閉ハ知事之ヲ定ム
- 第五條 出席ノ會員全員ノ過半數ニ至ラサレハ當日ノ會ヲ開カス

但時宜ニヨリ過半數ニ至ラサルモ開會スルコトアルヘシ

第六條 本會ハ午前第九時ニ始リ午後第三時ニ終ル時宜ニ因リ之ヲ伸縮スルハ會長ノ指揮

ニ隨フヘシ但疾病事故アリ出席スル能ハサルモノハ始會前届出ツヘシ

第七條 會員ノ席次ハ每會抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 會場ニ於テハ會員ノ姓名ヲ稱ヘス席次ノ番號ヲ用ウヘシ

第九條 會員ノ發言無用又ハ會員ノ協和ニ妨ケアリトスルモハ會長之ヲ制止スヘシ

第十條 本會ハ會長ノ特許ヲ得シモノ、外傍聽ヲ許サス

第十一條 本會ノ問題ハ知事之ヲ發ス

第十二條 會員勸業ノ事務ニ付本會ニ建議セントスルトキハ書面ヲ以テ會長ニ提出スヘシ

諮問ニ付スルト否トハ會長ノ意見ニアリトス

第十三條 會場ニ於テ發言セントスルモノハ起立シテ會長ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 陳辨問答ハ會長ニ向ヒ演述スヘシ會員互ニ應答シ又ハ着床ノ儘發言スヘカラス

第十五條 本會ノ演述ハ談話ノ体ニ倚ルヘシ

第十六條 諸説ノ可否ヲ採擇スルハ總テ會長ノ意見ニアリトス

但時宜ニ依リ可否ヲ起立ニ徵スルコトアルヘシ

第十七條 本會ハ勸業上公益ニ關スル事件ニ付主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルヲ得ヘシ

第十八條 知事ノ發シタル問題ハ其主務官ニ命シ旨趣ヲ辨明シ又ハ會員ノ質問ニ答ヘシムヘシ

第十九條 農商務省官吏若クハ知事ノ特許セル官吏ハ會場ニ於テ意見ヲ陳辨スルヲ得此場

合ニ於テハ總テ本則ニ從フヘシ但會員ノ數ニ算セス

第二十條 本會員ニハ開會中滯留日當往返旅費又ハ辨當料ヲ給ス

勸業委員并勸業會

○明治十七年三月廿八日乙第五十三號 郡 町 村

客年第十三號布達ニ依リ勸業委員并勸業會設置準則別冊ノ通相定候條此旨相達候事

勸業會設置準則

第一條 町村若クハ聯合町村ニ於テ農商工事ノ開進ヲ圖ル爲メニ農業會商業會工業會又ハ

農商工ヲ併セタル會其他全業會ヲ設置スルコトヲ得但各會ハ名稱チ一ニシテ檢束スルニア

ラス即農業會中ニ農談會アリ商業會中ニ商法會議所アリ全業會中ニ單一種ノ全業會或ハ

各種ヲ聯合シタル全業會アルヘシ

第二條 各會員撰舉方法及ヒ會則ハ戶長若クハ郡長ニ於テ其方案ヲ設ケ町村會若クハ聯合

町村會ノ決議ヲ經テ縣令ノ認可ヲ受クヘシ但有志者ヲ以テ組織スルモノハ此限ニアラス

第三條 各會員中成ルヘク勸業委員ヲ加フヘシ

第四條 各會ノ細則ハ其會ノ適宜設クル所ニ從フヘシ然レモ論議ハ成ルヘク談話ノ体ヲ用

フヘシ

第五條 各會ハ主務ノ官署ヨリ勸業上ノ件ニ付諮問アルルハ審議答申スヘシ

第六條 各會ハ勸業上公益ノ事件ニ付主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルヲ得

第七條 各會ノ諸費ハ町村若クハ聯合町村ノ協議費ヲ以テ支辨スヘシ但關係各業者ニ於テ協議支辨スルヲ得

第八條 各會會議ノ顛末縣廳ニ報告スヘシ

○明治二十年二月十六日訓令第三十八號 郡役所 戸長役場

明治十七年(三月)乙第五拾三號達中勸業委員設置準則左ノ通り更正ス

但既設勸業委員設置方則ハ本年三月三十一日限り廢止スヘシ

勸業委員設置準則

第一條 勸業委員設置規則ハ左ノ各條ニ基キ郡長ニ於テ方案ヲ設ケ其所轄内聯合町村會ノ評決ヲ經知事ノ裁可ヲ受クヘシ

第二條 勸業委員ハ郡長ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ擔任スルモノトス

一 農商工山林水産ノ開進ヲ計畫シ其事業ヲ獎勵スル事

二 勸業上知事又ハ郡長ヨリ訓令指揮スル所ノ事務ヲ處理スル事

三 農商工山林水産ニ關スル町村ノ統計表ヲ審査スル事

四 勸業上ニ關スル町村ノ事業ヲ監察スル事

五 勤儉貯蓄ニ關スル事

六 農商工山林水産鑛業ニ關スル通信ノ事

第三條 勸業委員ノ郡長ヨリ諮問セラレ又ハ戸長ヨリ協議セラル、トアルヘキ事項概テ左ノ如シ

一 道路溝灣開鑿修築ノ事

二 溝渠用惡水疏通ノ事

三 農商工山林水産鑛業ノ利害得失及改良保護ニ關スル事

四 農商工山林水産鑛業ニ關スル統計ノ事

第四條 勸業委員ハ勸業上ニ關シ知事ニ意見書ヲ呈シ及部内ノ農商工山林水産ノ事ニ關シ町村會又ハ聯合町村會ノ評決ヲ必要ト認ムルルルハ之ヲ郡長又ハ戸長ニ求ムルヲ得

第五條 勸業委員ハ一郡役所々轄内ニ名トス

第六條 勸業委員被撰者ハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限ル

一 滿二十歳以上ノ男子

二 撰舉區域内ニ住居スルモノ

三 府縣會規則第十三條第一款ヨリ第四款マテニ觸レサルモノ

第七條 勸業委員ハ郡役所々轄内聯合町村會議員ニ於テ六名ヲ撰舉シ其中ニ就テ知事ノ撰任ヲ受クヘシ

第八條 勸業委員ノ任期ハ滿三ヶ年トス但シ滿期再撰スルヲ得

第九條 勸業委員ノ手當旅費及事務取扱費ハ聯合町村費ヨリ支辨スルハ勿論ト雖其手當額ハ一ヶ月一名金七圓以上拾圓以下トス尤一名金七圓以上拾圓以下ヲ以テ積算シ其豫算内ニ於テ甲乙其額ヲ増減スルヲ得

第十條 勸業委員撰舉手續處務順序及手當旅費支給方法等ハ適宜規則中ニ加フヘシ

附則

第一條 勸業委員ノ撰舉ハ郡長之ヲ管理シ其當撰者ノ族籍氏名ヲ知事ニ申告スヘシ

第二條 知事ハ前條ノ申告ニ依リ二名ヲ撰任シ辭令狀ヲ交付ス

第三條 勸業委員撰任後若シ知事ニ於テ不適當ト認ムル時ハ任期内ト雖他ノ當撰者ニ更任シ又ハ改撰セシムルコトアルヘシ

第四條 勸業委員ノ事務ハ郡役所内ニ於テ取扱フモノトス

第五條 勸業委員ヲシテ部内町村ヲ分擔セシムルノ必要アル時ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

○明治十七年六月十四日乙第八拾一號 郡 町 村

本年<sup>六</sup>甲告第百八十七號ヲ以テ勸業雜報其他配布方及告示候ニ付テハ私立勸業會ニシテ既設ノ分ハ勿論爾來新設ノ節ハ其規則書相添可爲届出此旨相達候事

但解會ノ節モ其旨可爲届出且ツ明治十六年<sup>七</sup>乙第九十四號達ハ本月限り廢止ス

○明治十八年五月二十九日乙第八拾三號 郡役所 戶長役場 勸業委員

勸業委員私事旅行セントスルハ出願ノ上許可ヲ受クヘク忌引ノ節ハ其時々届出ヘシ此旨相達候事

○明治十八年九月二十二日乙第百二十四號 郡役所 戶長役場 勸業委員

勸業委員退任スルハ在任中取扱ヒタル書類簿册器械等ハ勿論各官署其他ヨリ配賦ヲ受ケタルモノモ總テ後任者ヘ引繼クヘシ此旨爲心得相達候事

沿革要領

明治十六年九月甲第八十三號博覽會又ハ共進會開設ノ節景況届出ノ義達(十八年九月甲第百四十一號更正)○十七年二月甲告第十八號勸業諸開會規則告示(今年十二月甲告第三百六十三號更正)○今年三月乙第五十三號勸業委員設置規則達(今年八月乙第百二十號更正)

二 同業組合  
● 同業組合

○明治十八年一月八日甲第二號  
同業組合規則左ノ通相定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ爲ス者ハ此規則ニ從フヘシ  
右布達候事(明治十八年六月甲第百十二號ヲ以準則ヲ規則ト更正)  
同業組合規則

第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ全業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設  
ケントスルハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り  
縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

第二條 全業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲スヘシ

第三條 全業組合ノ規約ニ掲グヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ撰擧法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵集及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルハ縣廳ニ申出其認定ヲ請フヘシ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事項及費用決算表ヲ毎年當廳ヘ報告スヘシ

第七條 規約ヲ改正スルハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 分立又ハ合併スルハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フヘシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルハ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

但シ其聯合他府縣ニ涉ルハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 第四條ヲ犯シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス(明治十八年六月甲第百十二號ヲ以テ追加二十二年六月縣令第七十三號ヲ以テ更正)

○明治二十一年二月二十二日縣令第三十一號

農工商同業組合及茶業組合蠶絲業組合漁業組合ニ於テ其規約中目的及方法ニ關スル事項ヲ更正セントスルトキハ其理由ヲ詳細副申シ認可ヲ請フヘシ

全上(茶業組合ヲ除ク)組合ニ於テ役員ヲ撰定セシトキハ其族籍氏名ヲ届出ツヘシ

○明治二十二年二月十三日縣令第十六號

農工商同業蠶絲業茶業漁業ノ各組合ハ其組合事項(事業ノ盛衰改良ノ事項組合員ノ増減製品検査高販路ノ景况製品相場ノ高低其他必要ノ事項)ヲ每年前後兩季ニ別テ前季ハ七月十日マテ後季ハ翌年一月十日マテニ申報スヘシ

全上組合費用決算表ハ其年度ノ終リタル月ヨリ二ヶ月間(假令ハ曆年度ニ據ルモノハ二月マテ會計年度ニ據ルモノハ五月マテ)ニ申報スヘシ

蠶絲業組合

○明治十八年十一月十七日甲第百五拾七號

蠶絲業組合規則左ノ通相定候條該規則ニ基キ組合規約ヲ設ケ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ(明治二十年十月縣令第百三號準則ヲ規則ト更正)

右布達候事

蠶絲業組合規則

第一條 蠶絲業ニ従事スルモノハ郡又ハ町村ノ區畫ニ依リ組合ヲ設置スヘシ

組合ニ加入セサルモノハ蠶絲業ヲ爲スコトヲ得ス

但自用ノミニ供スルモノハ此限ニアラス(明治二十年十月縣令第百三號ヲ以テ本條更正)

第二條 前條中蠶絲業トアルハ養蠶、製絲者及桑苗栽培者並ニ繭、絲、蠶種、桑苗等ヲ賣買ス

ルモノヲ總稱ス(明治廿一年八月縣令第八十一號ヲ以テ追加元第二條以下順次繰下ク)

第三條 組合ノ名稱ハ何縣下何<sub>郡町</sub>蠶絲組合ト稱スヘシ

第四條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 繭ハ春、夏、秋若クハ黃、白ノ種類又ハ大陽殺、蒸殺、燥殺等混淆シタルモノヲ賣買セサル事

第二項 製絲ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

第三項 桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ善良ナラシムル事

第四項 桑苗賣買上ノ弊害ヲ矯正スル事(明治二十一年八月縣令第八十一號ヲ以テ追加元項以下順次繰下ク)

第五項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

第六項 蠶卵ノ検査法ヲ設ケ蠶病ヲ豫防スル事

第七項 繭荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第八項 一梱ハ勿論一總若クハ一把中良否混淆等ノモノヲ製造販賣セサル事  
但等級ヲ區分シテ一梱トナシタルモノハ此限ニ非ス

第九項 生絲ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル事

第十項 繰取アル揚雙ヲ用ヒ尺度ヲ一様ナラシムル事

第十一項 生絲ノ結束及綴ノ量目ヲ一様ナラシムル事

第十二項 提造、島田、折返造等ノ生絲ヲ掲返サスシテ其儘改造賣買セサル事

第十三項 生絲検査法ヲ設ケ其精粗ヲ監別シ及製造上ノ弊害ヲ矯正スル事

第十四項 生絲荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若シクハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第五條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第六條 組合員ハ必ス其組合ノ議票ヲ携帶スヘシ但議票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第七條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ検査スヘシ

第八條 縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第九條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互選スヘシ

第十條 組合及取締所ニ關スル費用收支ハ各組合員集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 全國中便宜ノ地ニ蠶絲組合中央部ヲ設ケ各地方蠶絲組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スヘシ

第十二條 蠶絲組合中央部ノ規約ハ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 蠶絲組合中央部ノ役員ハ各地方蠶絲組合取締所ノ役員中ヨリ互選スヘシ

但時宜ニ依リ役員外ノ者ト雖モ之ヲ撰舉スルヲ得

第十四條 蠶絲組合中央部ノ費用收支ハ各地方蠶絲組合取締所役員ノ集議ヲ以テ之ヲ定ム



ヘシ

第十五條 前數條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ亦規約中ニ加ルヲ得  
第十六條 第一條ヲ犯シタルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス(明治二十年十月縣令第三百三号ヲ以追加)

○明治十九年一月十二日甲第四號  
客年<sup>十一</sup>本縣甲第五拾七號布達蠶絲業組合并取締所ノ儀ハ本年三月三十日ヲ限リ設置ス  
ヘシ

但組合未設置ノ地ニ於テ本年四月以後新規蠶絲ノ業ヲ營ム者ハ其都度最寄組合ニ加入ス  
ルカ又ハ別ニ組合ヲ設置スヘシ  
右布達候事

●漁業組合

○明治十九年八月二日縣令第四號  
漁業組合規則左ノ通相定ム依テ來ル明治二十年三月迄ニ組合規約ヲ設クヘシ  
但明治十八年二月本縣甲第二十九號布達ハ廢止ス

漁業組合規則  
第一條 漁業<sup>水産動物採捕ヲ併稱ス</sup>ニ從事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ漁業者ノ申立ニ依リ組合設置ヲ要セサル  
トアルヘシ

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目的トスヘシ  
第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 捕魚採藻<sup>遠海漁業等クハ大地引大數網捕鯨ノ類</sup>各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合トナスヘシ

第五條 組合規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 組合ノ目的
- 三 役員選舉法及權限
- 四 會議ニ關スル規程
- 五 加入者及退去者ニ關スル規程
- 六 違約者處分ノ方法
- 七 費用ノ徵收及賦課法
- 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事
- 九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事

十 漁場區域ニ關スル事

十一 前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第六條 組合規約ヲ更正シ若クハ組合ヲ分立合併セントスルハ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 組合聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルハ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ

但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルハ亦本條ニ準スヘシ

第九條 二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ

但支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

○明治二十二年十月十九日縣令第百十八號

漁業取締規則左ノ通相定メ明治二十年十二月縣令第百九號ヲ廢ス

漁業取締規則

第一條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ縣内外人ヲ問ハス組合外ノモノ從來ノ慣行特約ニヨリ組合(採介採藻トモ)スルハ其地組合規約ニ遵フヘシ

第二條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ遊樂若クハ自用ノ爲メ魚介藻ヲ採取スルモノハ其地組

合規約ニ定メタル制限禁止ノ事項ヲ遵守スヘシ

第三條 第一條第二條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ヲ處ス

○明治十九年八月二日訓令第一號 郡役所

今般縣令第四號ヲ以テ漁業組合規則相定候ニ付テハ漁業者組合規約ノ認可ヲ請フニ際シ規約條項ノ他地ニ關係ノ有無ハ勿論組合規則第一條但書ノ場合ニ於テハ特ニ隣接町村ニ影響得失ノ如何ヲ詳細調査意見ヲ具シ副申スヘシ

但明治十八年<sup>二</sup>本縣郡乙第十號達ハ廢止ス

○明治二十年三月九日訓令第六十四號 郡役所

客年(八月)縣令第四號ヲ以テ漁業組合設置ノ漁場ニ於テ漁業(水產動植物採捕ヲ云)及遊漁ヲ願出タルトキハ左ノ手續ニヨリ處分スヘシ

- 一 組合地區外ノ者漁業ヲ願出タルトキハ其地組合承諾ノ有無取調ノ上許否スヘシ
- 一 從來ノ慣行特約アル者ニ對シ組合ニ於テ故ナク承諾セサルハ其事由ヲ取調許否ノ意見ヲ具シ處分方伺出ヘシ
- 一 遊漁ヲ願出タルトキハ漁法漁具等組合規約ニ障礙ノ有無ヲ取調若シ障礙アリト認ムルトキハ其理由ヲ具シ處分方伺出ヘシ
- 一 出願者新規又ハ改良ノ漁具漁法ヲ用ヒ若クハ新規漁者增加其他水產蕃殖上妨害ヲ來ス可キ見込アルトキハ理由ヲ具シ處分方伺出ヘシ

一 前各項ノ外漁業組合規約ニ牴觸セサル様注意スヘシ

○明治二十年十二月二十三日告示第百九十號

縣下漁業組合ニ於テ實施セル漁業上制限禁止ノ事項左ノ如シ

島根秋鹿郡漁業組合 出雲國島根秋鹿兩郡

○漁場區域 (島根郡福浦字大福浦ヨリ秋鹿郡地合浦楯縫郡界マテ)

○漁場上制限禁止ノ事項

一 組合地區内ニ於テ左記ノ漁具漁法採藻具ヲ使用スルヲ禁ス

手繰網、タシマ網、絞網(明治廿一年四月告示第四十四號ヲ以更正)

石花菜採カギ(但十五歳未満ノモノ及婦女子ハ此限ニアラス)

二 採藻ノ期節ヲ定ムル左ノ如シ

石花菜 (四月ヨリ八月マテ) 肥料藻 (九月ヨリ翌年四月マテ) (明治二十一年四月告示第四十四號ヲ以更正)

四 鮑ハ三寸以上ニ成長セシモノニアラザレハ捕獲セサルモノトス

五 カサメハ一切刈採スルヲ禁ス

六 海鼠捕獲ノ季節ハ十一月ヨリ翌年三月マテトス

七 島根郡三保關字地藏ヶ鼻ヨリ沖ノ御前ヲ經テ因幡國青谷鼻見通シ全所ヨリ以南福浦マテノ海灣ニ限リ來ル明治二十三年十二月三十日マテ手繰網ヲ使用スルヲ得(明治

二十一年四月告示第四十四號ヲ以追加八項共)

八 海苔ハ灰又ハ器械(鐵製ノモノ)ヲ以テ採捕スルヲ得ス

中海漁業組合 出雲國島根意宇能義三郡

○漁場區域 中海一圓(島根意宇能義)三郡沿海町村浦

○漁業上制限禁止ノ事項

一 章魚ハ八九兩月間釣業ヲ禁ス

二 鰯網ハ三月十五日ヨリ十二月三十一日マテ使用ヲ禁ス

但鰯網附様糠蝦粉ハ長八尺幅三尺以内ノモノニ限リ七月ヨリ十一月マテ五ヶ月間使用ヲ許ス

三 前項鰯網ノ外総テ網目鯨尺三分以内ノモノハ使用ヲ禁ス

但喰殘魚ヲ捕獲スル張網ニ限リ二月ヨリ五月マテノ間使用スルヲ得

四 一月ヨリ九月マテ打網ト唱ヘ船繰等ヲ連打シテ網スル漁業ハ之ヲ禁ス

五 撻繩及釣魚ニ油餌ヲ用フルヲ禁ス

六 三月ヨリ六月迄左ノ區畫内ヲ限リ海藻刈採及捕漁ヲ禁ス

(島根郡上宇部尾村字黒山ヨリ全郡新庄村字成山マテ)ノ間目標區畫内

(意宇郡八幡村地先「マナイタクリ」ヨリ今郡意宇川尻ヲ見通シ海岸マテ)ノ間全上

(能義郡飯梨川尻ヨリ全郡下阪田村沖マテ)ノ間全上

全郡黒井田村字浦ヶ部ヨリ「マナイタクリ」マテノ間全上  
七島根郡森山村字日向浦ヨリ全村野島マテノ間二月ヨリ四月マテ網漁（投網ヲ除ク）一  
切ヲ禁ス

宍道湖漁業組合 出雲國島根意宇秋鹿出雲楯縫五郡

○漁場區域 宍道湖及支川（東ハ意宇郡馬瀧川口）（西ハ出雲郡下庄原村悪水川新橋及  
舟川横堀頭黒目村十四間川錦織茂三郎下落合）楯縫郡平田  
町舟川大橋（北ハ秋鹿郡江角川口）

○漁業上制限禁止ノ事項

- 一 捕魚採藻ヲ禁スル季節左ノ如シ
  - 小引網ハ毎年十一月ヨリ翌年六月マテ使用スルヲ許サス
  - 膾殘魚漁ハ毎年八月ヨリ十二月十五日マテ之ヲ禁ス
  - 採藻ハ毎年二月ヨリ五月マテ四ヶ月間之ヲ禁ス
  - 但松江分字三番川ハ此限ニアラス
- 二 左ニ掲クル漁法漁具ハ一切使用スルヲ禁ス
  - 丈高網 六艘網 手繰網 張切網（膾殘魚ヲ捕獲スル張切ニ限り使用ス  
ルヲ得） コデ網 サガリ待
- 三 浮網ハ濱佐陀川ヨリ布志名村ト湯町村トノ境界ヲ見通シ區分シ該以西ニ於テハ湖水

沿岸ヨリ四百五十間以外該以東大橋マテニ於テハ深ミ二十間ノ所（目標區畫内）ニ於  
テ使用スルヲ禁ス

但使用季節ハ九月ヨリ翌年一月マテヲ限リトス

四 多葉付（笹付芝付共）ハ十月ヨリ翌年三月マテ之ヲ禁ス

五 漁場ノ制限左ノ如シ

柄持網漁者甲乙前面ノ距離ハ秋冬二季ハ凡五十間以上春夏二季ハ凡五間以上トス激  
流ノ節ハ季節ヲ問ハス凡百間以上ヲ隔ツルモノトス

但甲乙漁者ノ示談ニ依リ距離ヲ減縮スルハ此限ニアラス

四ツ手網漁者甲乙ノ距離ハ凡七間以上ヲ隔ルモノトス

但同上

柄持網四ツ手網共豫テ竹木等ヲ植テ漁場ヲ専用スルヲ許サス

六 下庄原村舟川横堀頭ヨリ川下五十間（目標區畫内）及黒目村十四間川錦織茂三郎下落

合ヨリ川下四十間（目標區畫内）ヲ養魚場トシ漁業採藻ヲ禁ス

楯縫神門郡漁業組合 出雲國楯縫神門兩郡

○漁場區域（楯縫郡坂浦秋鹿郡界ヨリ神門郡口出儀村國界マテ）

○漁業上制限禁止ノ事項

一 鮑ハ縦三寸ニ成長セシモノニアラサレハ捕獲セサルモノトス

二和布及牛毛菜黑菜ヲ除クノ外藻ノ種類如何ヲ論セス四五六ノ三ヶ月間刈採セサルモノトス

但楯縫郡河下村ニ限り海岸ヨリ一丁以内ハ期節ヲ問ハス刈採スルヲ得  
三手操網ハ明治二十一年二月末日以降使用セサルモノトス  
四張待網ハ四五六ノ三ヶ月間使用セサルモノトス

遷摩安濃郡漁業組合 石見國遷摩安濃郡

○漁場區域 (安濃郡仙山村宇島津屋ヨリ遷摩郡吉浦村宇吉浦マテ)

○漁業上制限禁止ノ事項

- 一 二鮑ハ三寸以上ニ成長セシモノニアラサレハ捕獲セサルモノトス  
但舟及器械ヲ用ヒス徒手攫取スルモノハ本項ノ限りニアラス
- 二 肥料ニ供スル海藻ハ五月ヨリ翌年二月マテ十ヶ月間ハ一切刈採セサルモノトス
- 三 罾網浮標ノ近傍ニ於テ罾ヲ釣獲スルヲ得ズ
- 四 手操網ハ組合地區内ニ於テ使用ヲ禁スルモノトス
- 五 油餌(鯢油餌)ヲ使用スルヲ禁スルモノトス
- 六 七石花菜ハ器械ヲ以テ採捕スルヲ禁ス
- 七 八海苔ハ灰又ハ器械(鐵製ノモノ)ヲ以テ採捕スルヲ得ス
- 八 九海鼠ハ一個ノ量四十匁以下ノモノハ捕獲スルコトヲ禁ス

十 貽介ハ二寸以下ノモノヲ捕獲スルヲ禁ス

那賀郡漁業組合 石見國那賀郡

○漁場區域 (遷摩郡界ヨリ美濃郡界マテ)

○漁業上制限禁止ノ事項

- 一 一手繰網(一名ゴチ網)ハ明治二十年十二月限り其使用ヲ禁ス
- 二 竹挾ヲ以テ海藻ヲ採取(撿取ト稱スル法)スルヲ禁ス
- 三 ハンタケミ  
三八手網ハ海岸ヲ距ル二十五丁(陸里)以外又大敷網裝置ノ場所ヲ距ル二十五丁(同前)以外ノ場所ニ於テ使用スルモノトス
- 四 食料糊料トナルヘキ苔藻及食料糊料トナラサル禁採場外ニアルノ海藻ハ其種類ニヨリ採獲期節ヲ定メ期節初日七日以内ニ世話係ヨリ組合員一同へ通達スルモノトス(明治二十一年六月告示第六十號ヲ以テ追加以下四項共)
- 五 淡菜採獲期節ハ毎年八月ヨリ翌年四月迄トス而シテ三年生以内ノモノハ採獲スルヲ禁ス
- 六 鮑ハ毎年九月ヨリ翌年五月マテノ間ニ於テ採獲スルモノトシ其放卵季節ハ之ヲ保護スヘシ而シテ其徑三寸以内ノモノハ捕獲スルヲ禁ス
- 七 海鼠ハ毎年十一月ヨリ翌年四月ノ間ニ於テ捕獲スヘシ而シテ其徑四寸以上ニシテ可成前年生ノモノトス

周吉穩地郡漁業組合 隱岐國周吉穩地兩郡

○漁場區域周吉穩地郡周海

○漁業上制限禁止ノ事項

- 一 常分潜水器械ヲ使用スヘカラス
- 二 油餌ヲ使用スヘカラス
- 三 海鼠ハ曲尺四寸以下ノモノヲ捕獲スヘカラス
- 四 長ケ曲尺三寸以下ノ鮑ヲ捕獲スヘカラス
- 五 毎年七月ヨリ十二月マテ刈藻スヘカラス
- 六 海苔ヲ摘取スルニ灰ヲ撒布シ或ハ刃物其他ノ器械ヲ用ヒ岩石ヲ磨搔スヘカラス
- 七 水中集魚燈ヲ用フヘカラス

○明治二十一年一月十八日告示第五號

鳥取縣ニ於テハ水產上取締ノ爲メ今般左ノ如ク縣令ヲ發付セシ旨照會アリタリ

漁業組合設置ノ漁場ニ於テ縣内外人ヲ問ハズ組合外ノ者從來ノ慣行特約ニ依リ漁業(採介探藻下モ)スルトキハ其組合規約ニ遵フヘシ

漁業組合設置ノ漁場ニ於テ遊樂若クハ自用ノ爲メ魚介藻ヲ採取スルモノハ其組合規約ニ定メタル制限禁止ヲ破リ漁撈採藻ヲ爲スヘカラス

○明治二十一年四月十四日告示第三十九號

山口縣ニテハ水產保護ノ爲メ左ノ通發令セシ旨通知アリタリ

本縣各郡區沿海ニ於テ縣内外人ヲ問ハズ從來ノ慣行又ハ特約ニヨリ水產ノ動植物ヲ採捕スルモノハ其地漁業組合規約ニ定メタル制限禁止ノ事項ヲ遵守スヘシ

●米穀改良組合

○明治二十二年十月三十日縣令第一百十九號

米穀ノ改良ヲ計ランカ爲メ組合ヲ設置セントスルモノハ別紙米穀改良組合準則ニ據ルヘシ

(別紙)

米穀改良組合準則

第一條 米穀改良組合ハ地主稻作者及米商ヲ以テ組織シ郡若クハ市町村ノ區域ニ依リ組合ヲ設クヘシ

第二條 組合ノ名稱ハ島根縣何(郡市町村)米穀改良組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ設クヘシ

耕作法ヲ改良スル事

賣買上ノ弊害ヲ矯正シ販路ノ擴張ヲ圖ル事

米質ヲ改良シ種類ヲ一定スル事

乾燥ヲ充分ナラシムル事

米製ヲ精良ナラシムル事

俵造改良スル事

水田ヲ乾シニ毛作ヲ爲ス事

新古米及各種ノ米ヲ混淆セサル事

故サラニ水分ヲ和シ其他不正ノ處爲チナサ、ル事

貯藏法ヲ完全ナラシムル事

米俵ニハ作人ニ於テ組合ノ名稱并ニ住所姓名ヲ記シタル中札及差札ヲ附スル事

米穀改良上獎勵法ヲ設クル事

第四條 組合規約ハ左ノ各項ヲ掲ケ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

組合ノ地區及事務所位置

組合ノ目的及方法

役員撰擧法及權限

會議ニ關スル規程

加入者及退去者ニ關スル規定

違約者處分ノ方法

費用ノ徵收及賦課法

右ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第五條 組合ハ組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ス

第六條 規約ヲ改正シ又ハ組合ヲ分立合併スルハ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

第七條 組合ニ於テハ聯合會ヲ設クルハ其規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 組合ノ費用ハ總テ組合員ノ負擔トス

第九條 組合ハ總テ其事蹟及費用ノ收支決算ヲ毎年縣廳ニ報告スヘシ

沿革要領

明治十七年九月甲第百二十四號茶業組合準則布達 全年十二月甲第百六十八號十八年二月甲第二十七

號二十年七月縣令第七十二號更正) 〇十八年二月甲第二十九號水產取締準則布達 〇全年二月乙第十號水產取締規程

ノ認可ヲ請フハ郡役所意見ヲ副申セシム 〇二十年十二月縣令第百九號漁業組合設置ノ漁場ニテ組合外ノモノ漁業ス

ルハ其規約ニ遵フヘキ旨ヲ令ス 〇二十一年一月縣令第一號茶業組合準則廢止

### 三 統計 報告

#### ● 統計 表

明治二十二年七月十五日訓令第四百四十五號 島 廳 郡役所 市役所  
 明治十九年九月訓令第三十四號及全二十年六月訓令第六十四號農商工統計表樣式中概況  
 報告部ヲ廢シ統計部別冊ノ通改正候條明治二十二年分ヨリ該表式ニ照準調査進達スヘシ  
 (別冊)

各表進達期限

種別	表	目	進達期限	進達期限
農	米穀作付段別及收穫石高概算表	戸長役場町役場ヨリ嶋廳郡役所へ	每年十二月十五日	嶋廳郡役所市役所ヨリ縣廳へ
	麥作付段別及收穫石高概算表		每年六月二十日	
	繭産額概算表		每年三月十日	
	生絲産額概算表		全上	全上
	層絲眞綿繭卵紙産額概算表		全上	全上



業											
製茶產額概算表	全上	全上	製糖產額概算表	全上	全上	牛數表	全上	全上	馬數表	全上	全上
屠殺牛馬表	全上	全上	桑畑段別概算表	全上	全上	田畑自作地小作地概算表	每五年三月十日	全上	茶畑段別概算表	全上	全上
大豆粟稗產額概算表	全上	全上	黍蜀黍蕎麥產額概算表	全上	全上	甘藷馬鈴薯產額概算表	全上	全上	實綿大麻苧麻菜種產額概算表	全上	全上

工				部 業 商			部				
製紙產額概算表	全上	全上	全上	都邑物價	市場種別	商賈種別	牧場表	豚數表	生蠟漆汁產額概算表	全上	全上
西洋紙及摺附木產額概算表	全上	全上	全上	織物產額概算表 (1)(11)	每年一月十日	每年四月十日	全上	全上	葉烟草藍葉甘蔗產額概算表	全上	全上
綿絲產額概算表	全上	全上	全上	都邑物價	每年一月十日	每年四月十日	全上	全上	生蠟漆汁產額概算表	全上	全上
陶磁器價格概算表	全上	全上	全上	市場種別	每年一月十五日	每年五月一日	全上	全上	生蠟漆汁產額概算表	全上	全上
製紙產額概算表	全上	全上	全上	商賈種別	每年一月十五日	每年五月一日	全上	全上	生蠟漆汁產額概算表	全上	全上

社會	水產部					農業部				
農商諸會社表 (一)(二)	漁獲金額概算表	漁船表	淡水產物捕獲概算表	海水產物捕獲概算表	食鹽產額概算表	水產製造物產額價格概算表 (一)(二)(三)(四)(五)	製革產額概算表	油類產額概算表	麥稈紐產額概算表	農工及諸雇賃錢表
每年一月十日	每五年三月十日	全上	全上	全上	全上	每年三月十日	全上	全上	全上	全上
每年一月十五日	每五年四月一日	全上	全上	全上	全上	每年四月一日	全上	全上	全上	全上

部	工業會社及製造所表 (一)(二)	全上	全上
<b>農業部</b>			
<b>目錄</b>			
米穀作付段別及收穫石高概算表			每年
麥作付段別及收穫石高概算表			全
繭產額概算表			全
生絲產額概算表			全
屑糸眞綿蠶卵紙產額概算表			全
製茶產額概算表			全
製糖產額概算表			全
牛數表			全
馬數表			全
屠殺牛馬表			全
桑畑段別概算表			全
米穀作付段別及收穫石高概算表			明治何年分

考 備	石	養蠶家ノ數			考 備	計	小 裸 麥 麥
		春	夏	合			
		繭	繭	繭			
		玉繭	玉繭	玉繭			
		屑繭	屑繭	屑繭			
		出殼繭	出殼繭	出殼繭			
		計	計	計			
		繭	繭	繭			
		玉繭	玉繭	玉繭			
		屑繭	屑繭	屑繭			
		出殼繭	出殼繭	出殼繭			
		計	計	計			
		繭	繭	繭			
		玉繭	玉繭	玉繭			
		屑繭	屑繭	屑繭			
		出殼繭	出殼繭	出殼繭			
		計	計	計			

繭產額概算表

每一ヶ年間調

大 麥	種 類	畑			田			考 備	種 類	本年作付段別	本年收稔高	一段歩 收稔高	
		本年作付段別	本年收稔高	一段歩 收稔高	本年作付段別	本年收稔高	一段歩 收稔高						
段	石	段	石	段	石	段	石	段	石	段	石	段	石
		田畑作付田畑收稔高	田畑作付田畑收稔高	田畑作付田畑收稔高	田畑作付田畑收稔高	田畑作付田畑收稔高	田畑作付田畑收稔高						
		計	計	計	計	計	計						

麥作付段別及收稔石高概算表

明治何年分

前年ニ對スル増減ノ事由ヲ陳述スヘシ以下此例ニ準フ

一本表一郡毎ニ纏メ計算スルノ際ニ當リ其計數ハ四捨五入ノ法ヲ用フヘシ以下此例ニ準フ  
但一段歩收稔高計數ハ單位以下三位ノ分數ヲ存スルヲ例トス

秋蠶繭天産繭ノ産額ハ本表ニ準シ別表ニ記スヘシ

生絲産額概算表

每一ケ年間調

考 備	製絲家ノ數	撿	折返シ造	提造	島田造	鉄砲造	其他	合計
		器械坐繰						
	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫

一本表ハ其地産出ノ繭ト他ヨリ買入タル繭トヲ論セス其郡内ニ於テ製シタルモノヲ表出スヘシ

層絲眞綿蠶卵紙産額概算表

每一ケ年間調

熨斗絲	玉	絲	生皮	亭	其他屑物	合	計	眞	綿	蠶卵紙
-----	---	---	----	---	------	---	---	---	---	-----

一本表ハ其地産出ノ繭ト他ヨリ買レタル繭トヲ論セス其郡内ニ於テ製シタル者ヲ表出スヘシ

製茶産額概算表

每一ケ年間調

考 備	碾茶	玉露	煎茶	番茶	釜熬	紅茶	烏龍	合計
	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫